



人間学群

教育学類

心理学類

障害科学類

2021年度入学案内

教育学類

- 人間形成系列
- 教育計画・設計系列
- 地域・国際教育系列
- 学校教育開発系列



目次

教育学類	2
心理学類	18
障害科学類	26

新しい社会を 創造していく皆さんへ

人間学群長 鄭 仁 豪



人間学群は、人間を探究する科学を行う学群です。1975年旧人間学類として設立され、2007年改変により現在の人間学群に至っています。1872年設立された師範学校設立時の「時代が必要とする人材養成の責務」を引き継ぎつつ、1975年人間学類の創設時に、先達が目指したものは、「未知なる人間の真の姿を科学的に追求し、人間の本性やそのあり方を学際的な広い視野から究明する学問」でした。その後、大学における組織やカリキュラムなどの変革や変貌が繰り返される中でも、人間を科学的に追求し、その本質を究明する人間学群の原点は、変わることはありませんでした。

人間学群は、現在、教育学、心理学、障害科学の3つの専門分野から展開されています。学類学群の45年の歴史の中で、その時代時代の使命と責任を果たすべく、企業、行政、教育、福祉医療など、社会のあらゆる方面で活躍する大勢の人材を排出してきました。

現在社会は、第4次産業革命により展開される新しい社会 (Society 5.0) へ突き進んでいます。学校での学習や教育も、文系や理系を超えた学問領域の統合が行われ、人工知能を活用し展開されることが予想されています。人々にも創造的発想や柔軟な思考が一層求められるなど、社会における人材像も大きく変化しています。このような世界において、人間のあり方や生き様を問い続けることは、人間学群の社会的責務であり、人間学群が追い求める学問の原点といえます。人間学群は、これからの社会に生きる知識と思考を追い求める学問として大きな存在価値があります。

今年度は、人間学群の3学類合同の学群パンフレットを制作しました。これまでの歴史に学びつつ、これからの共生社会を創造する人材を育てる人間学群としての新たな決意の証です。これから、社会を創造し率引していく皆さん、是非人間学群で皆さんの感性を育て、知恵と発想力を鍛えてください。皆さんと新しく改修した人間学群棟でお会いすることを心から楽しみにしています。



目次

ようこそ教育学類へ	4
教育学類のミッション	5
履修の進め方と授業科目	6

系列紹介Ⅰ：人間形成系列	7
系列紹介Ⅱ：教育計画・設計系列	8
系列紹介Ⅲ：地域・国際教育系列	9
系列紹介Ⅳ：学校教育開発系列	10

卒業生の言葉	11
教員紹介	12
卒業後の進路	13-14
入試の仕組み	15
教育学類へのアクセス	16

ようこそ教育学類へ

みなさんは、筑波大学人間学群教育学類に対してどのような印象をお持ちでしょうか。本学類の特徴をキーワードであげるとすれば、「歴史性」「多様性」「学問性」「学際性」「国際性」の5点にまとめることができます。

「歴史性」とは、教育学類のもつ長い伝統を意味しています。筑波大学の前身は東京教育大学(1949-1978)であり、現在の東京キャンパスに位置していました。教育学類は、東京教育大学教育学部教育学科を引き継いでおり、さらに東京文理科大学(1929)、東京高等師範学校(1902)、東京師範学校(1872)とさかのぼれば、実に150年近い歴史を有しています。当然、この間多くの教授陣と卒業生を輩出して、日本の教育界を研究と実践の両面からリードしており、「教育の筑波」という言葉は現在でも広く伝わっています。

「多様性」とは、教育学を俯瞰的にとらえ、人間形成としての教育のあり方を追究していくことです。教育哲学、教育制度・行政、学校経営、比較国際、教育社会学、生涯学習、教育方法、教育臨床、教科教育、道徳・特別活動・キャリア教育といったさまざまな専門分野は、みなさんが想像している以上に教育学の奥深さを感じさせてくれるはずです。進路についても、小・中・高等学校の教員はもとより、文部科学省や教育委員会といった公務員や、教育関係の民間企業といった多様な道に、卒業生は進んでいます。

「学問性」とは、一人ひとりが研究者としての意識をもち、関心のあるテーマを深めることを

意味します。筑波大学は大学院が充実しており、教育学学位プログラム(博士前期・後期課程)に所属する大学院生との交流も活発に行われています。教員の指導の下、文献講読や調査に取り組み、質の高い卒業研究を完成させるとともに、自らも大学院に進学して大学教員を目指す学生が多いことも特徴です。

「学際性」とは、他分野の学問や従来の枠組みに収まらないテーマを学習することで、幅広い教養と総合的な智を身に付けることを目指しています。これは筑波大学の建学の精神でもあり、学部・学科という名称を使用しない点に学際性の姿勢が表れています。人間学群においても、隣接する心理学類、障害科学類の授業を積極的に履修しながら、学生の知的欲求に応える環境を用意しています。

「国際性」とは、海外に関する経験を積みながら、国際人としての資質を高めることを意味しています。さまざまな海外留学プログラムや世界各国からの留学生との交流を通じて、グローバルな見方や考え方に触れるとともに、学習においても英語の文献を読みながら、研究動向および海外の教育や学校の現状について学ぶことが期待されます。

学習に限らず、自分のやりたいことを自らの責任において自由に実行できることが、大学の魅力です。みなさんと一緒に、教育学類で学べる日が来ることを、教員一同楽しみにしています。

教育学類長 樋口直宏

教育学類の2つのコースと4つの系列

教育学類では、総合的な教育学を構成するさまざまな研究領域のつながりを考えて、2つのコースと4つの系列を提案しています。

2年次になると、小学校教員免許状の取得を強く希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。「初等教育学コース」に所属する学生は、「学校教育開発系列」に含まれる、小学校教員免許状の取得に必要な科目の授業を集中的に学びますが、「教育学コース」に所属に所属する学生は、「人間形成系列」「教育計画・設計系列」「地域・国際教育系列」「学校教育開発系列」という4つの系列の中から、特に関心のある系列を1つ選び、その系列に含まれる授業を集中的に学びます。どちらのコース・系列の場合でも、学ばれた知識・技能を活かし

て、学生は4年次に、卒業研究をまとめていくことになります。

また、すべての学生は、4つの系列に含まれる科目を、必ずいくつかは履修しなければなりません。なぜならば、1つの系列のみの知識・技能を習得することよりも、教育学に関する知識・技能を全般的に学ぶことの方が、教育に関連した優秀な理論家・実践家となるには有効であると考えているからです。

教育学類の学生には、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、「教育学」という学問をさまざまな観点から学ぶことが求められるのです。



教育学類のミッション

新たな学群・学類 —「人間学群・教育学類」の誕生—

筑波大学は、2007年4月に、学群・学類を新たにしました。それまで「第2学群・人間学類・教育学専攻」と呼ばれていたものが、「人間学群・教育学類」として新しく生まれ変わりました。

筑波大学は、創設以来、従来の制度にとられない新しい構想の下に大学づくりに取り組んできました。その象徴的な取り組みの一

つが、学部で代わる教育組織である「学群・学類」という考え方です。筑波大学では、このような特色をさらに発展させ、教育内容の一層の充実を図るために、学群と学類の再編成を図ることにしました。

「教育学類」の特徴

こうして生まれた新しい学群は、全部で9つになります。「教育学類」は「人間学群」の中に含まれます。人間学群は「人間の発達や

形成に関わる学問分野を対象とする学群」という使命を持って、「教育学類」「心理学類」「障害科学類」の3つの学類をつくり、学類相互の連携を大切にしています。したがって、教育学類の学生は、教育学・心理学・障害科学の3つの学問領域を学際的に学び、人間の発達や形成に関する総合的な知識・技能を習得することが期待されています。

達成すべき水準

人間に関する総合的な知と教養

複雑化・高度化する現代社会を見据えた確かな人間理解のために、教育学と心理学及び障害科学の基礎を包括した、学際的・総合的な知と教養を身に付けます。

教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方

教育事象に対する鋭い問題関心と教育学全般についての幅広い学識を身に付け、教育事象についての総合的かつ体系的な見方・考え方を学びます。

教育専門家の資質

教育問題に対する理論的思考と現場体験との交流・融合を通して、教育学の専門知識を実践に生かし、実践を豊かに展開する能力を発展させ、学校、地域、国・自治体、企業、国際機関などの様々な「教育の現場」で必要とされる教育専門家としての資質を培います。

教育学の基礎的研究能力

教育に関する研究課題を設定し、史資料やデータを収集・分析しながら、説得力ある一定の結論を導く実証科学的思考力とともに、その成果を的確にプレゼンテーションする表現能力を培い、将来的に教育学研究の第一線を担う人材としての基盤を育成します。



令和元年度卒業論文優秀者と筑波大学茗溪会賞受賞者

4年次には各自が様々なテーマで卒業研究に取り組みます。仕上がった論文は厳正に審査され、優秀な論文を書いた学生は学群長表彰の対象となります。また、クラス代表などを通して学生や大学のために顕著な活動を行った学生は、筑波大学茗溪会表彰の対象となります。



教育学類新生オリエンテーション

履修の進め方と 授業科目

筑波大学は創設当初より、教養課程と専門課程というような区別を設けず、教養教育的な科目（「基礎科目」）と専門教育的な科目（「専門基礎科目」「専門科目」）を有機的に連携させた教育課程（カリキュラム）を編成しています。

1年次の授業科目は、「基礎科目」と「専門基礎科目」が中心です。「専門基礎科目」には「教育学類共通科目」のほか、「人間学群コアカリキュラム」のような人間学群に共通する入門科目があります。1年次の履修では、教育学に加えて、心理学と障害科学という人間学群に属する他の学問分野を学ぶことができます。また、2年次になると、「教育学コース」と「初等教育学コース」に分かれて、「教育学類共通科目」と「専門科目」を履修することになります。2年次に履修する授業は、1年次に履修する授業と比べると専門性が高くなるのが特徴です。また、「教育インターンシップ実践演習」や「教育学研究法」のように、さまざまな体験を通して、教育学を実践的に学ぶことができます。そして、3年次には「専門科目」を履修することで、教育学を専門的に学ぶ機会が増大します。先に教育学類には4つの系列があることを説明しましたが、3年次には4つの系列の授業を全般的に学ぶとともに、特に関心のあ

る一つの系列の授業を集中的に学ぶこととなります。こうして身に付けられた教育学の専門的知識が、4年次に取り組むこととなる「卒業研究」の基礎となります。

これ以外に、教職免許を取得する学生は、「教職科目」を履修することになります（ただし、小学校教員免許の取得を目指す学生は、原則として2年次に「初等教育学コース」に所属したうえで履修することになります）。教職免許に必要な「教育実習」は、筑波大学の場合、4年次に行うこととなります（小学校教員免許の場合、原則として3年次に行う）。また、社会教育主事の資格を取得する学生は、「社会教育主事科目」を2年次・3年次に集中的に履修することになります。さらに、筑波大学には、学生が人間学群・教育学類という垣根を越え、他の学群・学類の授業を自由に履修できるという特徴があります。これが、「その他」の科目です。

大学の授業は、高校時代とは異なり、学生の主体性が基本となります。自ら学ぶことを通し

てのみ、学問の奥深さと面白さを学ぶことができるのです。

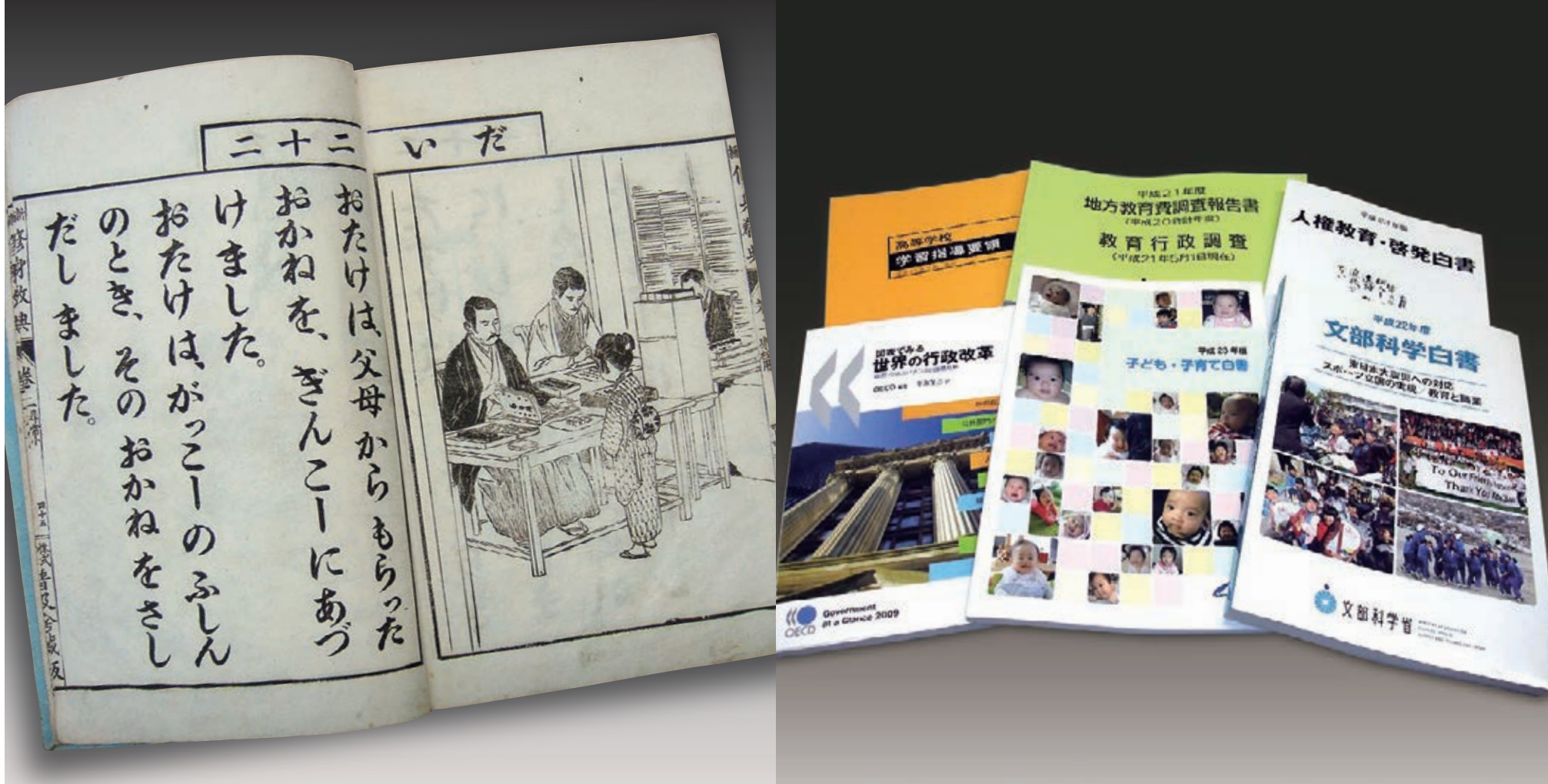
（今後カリキュラムが改編される可能性があります）

	1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎科目	総合科目				新入生に対し実施するフレッシュマン・セミナーおよび学問への誘い
					広く社会や世界の視点から多様な考え方、生き方に触れる学士基盤科目
	体育	体育			健康管理及び体力増進を目的とする科目
	第1外国語 英語				外国語の実用的能力の養成を目的とする科目
人間学群	第2外国語 初修外国語				外国語の入門的・基礎的な学習を目的とする科目
	情報				情報科学に関する基礎的な能力の養成を目的とする科目
	人間学				「人間とは」を多面的に学ぶ科目
	教育基礎論				教育学の入門科目
専門基礎科目	学校の経営・ 制度・社会				
	心理学概論				心理学の入門科目
	障害科学I又はII				障害科学の入門科目
	キャリアデザイン 入門				卒業後の進路(就職)を考えることを目的とする科目
教育学類		教育インターンシップ 基礎論			教育現場における実践的な活動を行うための準備科目
		教育インターンシップ 実践演習			教育現場における実践的な活動を行う科目
		教育学研究法A			教育学・教科教育学の基礎的領域における文献研究を行う科目
		教育学研究法B			教育事象を調査によって実証的に研究するための知識・技能を習得する科目
専門科目			教育学実践演習		卒業研究につながる科目
				卒業研究	4年間の学習の成果を卒業論文にまとめる科目
	〈人間形成系列〉	●教育学コース 概論・演習・実践演習			4つの系列の授業を全般的に履修するとともに、特に関心のある系列の授業を集中的に履修する
	〈教育計画・設計系列〉	概論・演習・実践演習			
教職科目	〈地域・国際教育系列〉	概論・演習・実践演習			
	〈学校教育開発系列〉	概論・演習・実践演習			教員資格を得る上で履修を定められた科目
主事科目	〈学校教育開発系列〉	●初等教育学コース 概論・演習・実践演習			
			教育実習を含む	教育実習を含む	
その他					社会教育主事資格を得る上で履修を定められた科目
					教育学類の履修に関連して周辺領域から履修できる科目および幅広い教養を身に付けるために履修できる他学群・他学類の科目

人間形成系列において、学生は教育に関する基礎を学ぶことができます。その中には、教育哲学・日本教育史・外国教育史・道德教育・キャリア教育学という分野があります。

現在、この系列の授業のなかには、主に、世界や日本の歴史をさかのぼって、学校というものがどのように成立・展開してきたのかを考えたり、今日の教育のあり方を導いた偉大な人物の足跡・思想をとらえなおしたりする授業が開講されています。より具体的に言うと、前近代を中心とする日本教育史の全体像、近代を中心とする日本教育史の歴史像、クラス・カリキュラム・一斉教授の思想と歴史、シュタイナー教育の人間形成、諸外国の道德教育の諸相、古代ギリシャの哲学やソクラテスの教育思想、などを内容として取りあげています。このような内容を学ぶことで、教育学の基礎的知識が習得されるのです。

この系列のなかで卒業研究をまとめることになれば、教育の本質や原理を考える基礎的教養が身につくために、学界や教育界などの多様な分野への進路選択が期待されます。



明治期の教科書『新編修身教科書 尋常小学校用』1900年（日本教育史調査室蔵）

教育政策に関する報告書類

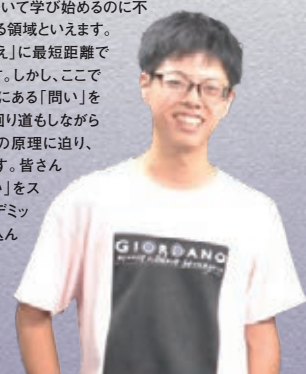
系列紹介Ⅰ

人間形成系列

在校生からのメッセージ

出原 幹大

皆さんは、教育っていったい何なのだろう、などと考えたことはありませんか。他にも、こんなこと習って何の役に立つのだろう、何のために学校に行くのだろう、日本の教育はこれからどうなっていくのだろう――ふと、そのようなことを疑問に感じたこともあるでしょう。学校教育を受けてきた私たちにとって、教育学は非常に身近な学問だと言えます。ここ教育学類は、人間形成の意図的・計画的営みとしての教育学について、教員養成のみならず、学校・社会・文化・行政・国際・情報等様々な視点から踏み込むことが出来る学類です。そして人間形成系列では、教育哲学や教育史、道德教育、キャリア教育学といった分野から、全ての教育学の基盤となる思想や理論、知識を人文的に学ぶことが出来ます。つまり、教育の本質をとらえ、皆さんが疑問に感じてきたようなことを探究したり、また新たな問いを見出したりと、教育について学び始めるのに不可欠な足場を提供してくれる領域といえます。教育現場では、正確な「答え」に最短距離で辿りつくことが求められます。しかし、ここでは各々の問題関心の基盤にある「問い」を探り、時間をかけて、時に回り道もしながらじっくり思考することで、その原理に迫り、徹底的に探究していきます。皆さんも、身近に感じてきた「問い」をスタート地点に、さらなるアカデミックな教育学の世界に飛び込んでみませんか。



卒業研究の例

- 初期コルバーク道德教育論に関する一考察
—インドクトリネーション批判に焦点を当てて—
- ヘルバルトのヘーゲル「エンチュクロペディ」の批評について
- プラトン『国家』における音楽と体育における幼少期の教育論
- パウハウスの再評価に向けて
—1900年前後の芸術運動の分析を中心として—
- Death Educationの必要性と可能性
—子どもにいのちを教える意義—
- 「書く」ことの教育史的考察
—知のあり方との関わりにおいて—
- 「大東亜共栄圏」をめぐる英語教育の戦時編制
—南方占領地フィリピンにおける日本語教育との関係に着目して—
- 1970年代のアメリカ合衆国におけるキャリア教育の再評価
—学校を基盤とする総合的キャリア教育モデルの実践方策に焦点をあてて—
- 普通科高校におけるキャリア教育の中核的な時間の運用方策に関する研究
—インターンシップ等の体験的な活動との関連に着目して—
- 「東北」と「方言」をめぐる教育史的展開
—1900年代から1950年代における教師の実践と動向に着目して—

開設授業科目の例（令和元年度の場合）

〈講義科目〉
教育哲学：教育とは何であるか、人間にとっての意味、教育の目的、方法、可能性について論じる。
日本教育史：時代状況と関連づけながら、近代以降「教育」に枠づけられる、人間形成の展開・構造・特質を探究する。日本の「学校」の位相を中心に、専門的な論文や資料を用いて検討・考察する。
アジア教育史：文献の講読を通して、アジア教育史に関する基礎的な研究成果を学ぶ。
〈演習・実践演習科目〉
道德教育論演習：現在の日本の教育現場で知られている道德教育の諸理論を取りあげ、その特徴を問題点について具体的に検討し、討議する。
外国教育史演習：西洋教育史および教育思想史に関する古典および研究書（論文）の読解を中心に授業を進め、相互討議のなかで問題意識と歴史認識を深めていく。

卒業研究の例

- 総合大学における教職志望学生の進路選択のプロセスに関する研究
—3・4年次生と大学院生のインタビューを通して—
- 自律的学校経営の時代における教育委員会の学校支援の現状に関する研究
—市町村教育委員会と学校とのコミュニケーションに着目して—
- 中学校における保護者及び地域住民との連携の意義に関する研究
—新設された地域運営学校の事例分析を中心として—
- 学校建築の変容と授業改善の関係性についての一考察
—教科教室型校舎の中学校の事例分析を中心として—
- 「小1プロブレム」の解決方法に関する研究
—新聞記事の分析を通して—
- 女性教師が校長になりゆくプロセスにみる「転換」に関する研究
—小学校女性校長のライフヒストリーの分析を通して—
- アメリカのフリースクール運動におけるデモクラシーの展開
- 山形県の少人数教育施策における教師の意識変化に関する研究
—授業改善に対する意識に注目して—
- 日の丸・君が代問題における政策変容に関する一考察
—東京都を事例として—
- 現職教員の大学院での学びに関する一考察
—「実践的指導力」と「省察」の関係構造に着目して—

在校生からのメッセージ

稲葉 彩月

教育計画・設計系列で学ぶことの面白さは何かと聞かれたら、私は「人生の伏線回収をしている気分になれること」と答えるでしょう。なぜならば、この系列では今まで自分が受けてきた、そして自分が受けている教育の背景や目的、意図を深く理解することができるからです。例えば、なぜ義務教育が行われているのだろうかということについて。教育基本法5条の中では、義務教育が「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われる」と述べられています。つまり私が、

開設授業科目の例（令和元年度の場合）

〈講義科目〉
教育制度論：今日、さまざまな教育改革が行われているが、ではどのような学校教育が望ましいのか。本講義では、「学校教育制度をつくってみる」という観点から、学校教育を構成する主要な制度的要素を取り上げ、現行制度の根拠とその改革の可能性を検討する。
教育法制論：学校教育と教育行政に関わる法規の概要と改正動向を明らかにし、学校や教育行政にはどのような対応が求められているのか。どのように学校教育の改革が進められようとしているのかを把握する。
比較学校経営論：日本、イギリス、オーストラリア等の学校経営の政策と実践について検討し、今後の学校経営改革の在り方を考える。学校経営の比較を行い、学校営々研究に関する国際的視野を育成する。
〈演習・実践演習科目〉
学校経営論演習：学校をよりよくしていくとはどういうことか？よりよい学校を創造するうえで「組織」「経営」という概念で括られる諸条件はどのような機能や意味をもつのか？そしてどのようにあるべきであり、実際にはどのようにありうるのか？—これらの問いを中心に据えて、文献読解、受講者自身の調査と発表、討議、そして学校訪問調査などを織り交ぜながら進めていく。

そして国民が受ける義務教育はこのような資質を持つ国民を育成するためといえます。他にも学校教育法や、学習指導要領といった様々な法律、そして教育課程の基準によって、学校教育は支えられ、その目的が定められています。教育の制度を知ること、自分たちの受けている教育の意味を知ることに関がります。では、実際にこうして定められた法律や基準、そして学校の在り方が、本当に今必要な教育にふさわしい形になっているのでしょうか。これから生きていく子どもたちがどのような力を身に付けていくべきかを考えながら、社会情勢や、諸外国との比較などを通して様々な視点から追求していくことも、この系列で学ぶ醍醐味

系列紹介Ⅱ

教育計画・設計系列

授業や学級活動、学校行事など、学校における学習の場は、さまざまな組織や制度に支えられて成り立っています。たとえば6・3・3制や学校の中での学年や学級（クラス）という仕組みがあります。また、学校の教育活動が効果的に行われるために学校では教職員の協力体制や父母・地域住民の参加の仕組みが作られ、自治体の教育委員会は教職員人事や学校への指導を行ったり、予算を配分したりしています。国はこうした活動のための法制度を整備したり、補助金などを通じて支援したりしています。

教育計画・設計系列では、学校教育をデザインし、支援する活動について研究します。教育の制度、行財政・法制、学校の組織・経営について、理論や歴史、日本や諸外国の制度や実践から学びます。そして、これからの学校教育のデザインと支援を開発・提言・実践できる人材を育成します。

の一つだと思います。みなさんもしぜひ、この系列での学びを楽しんでください。



地域・国際教育系列

教育とは、学校、地域社会、家庭など、さまざまな「場」でおこなわれている多様な人間形成の営みであるといえます。本系列では、こうした教育的営みを社会・文化とのかかわりでローカルレベルからグローバルレベルまでも視野に入れて実践的・理論的に探究する授業科目で構成されており、多様なレベルにおける教育・学習活動について幅広く理解する視点を持つという点に特徴があります。

本系列の授業科目を通じて、公民館、図書館、博物館、カルチャーセンターやスポーツ施設等の生涯学習の場で学習支援をおこなう地域社会教育の専門家、あるいは国際理解教育など国際的な場での教育支援に従事する専門家の道を目指してほしいと考えます。



フィールドワーク報告会の様子

卒業研究の例

- 教育開発援助における初等教育普遍化政策への批判的検討
ーサブ・サハラ・アフリカに焦点をあててー
- 大学生活と「主体性」の関係性に関する研究
- 地域活動における子ども・若者の参画と学びのプロセス
- 企業による出張授業の経営的・教育的意図と課題
ー銀行による金融教育を事例にー
- 現代中学生の友人関係における社会的相互行為の実態について
ー「キャラ」という自己呈示に着目してー
- グリーン・ツーリズムにおける食農教育の可能性に関する研究
ー農村住民の教育的意図の伝達に着目してー
- 農村における「地域コミュニティ」の形成
ー学習活動を通じた連帯意識の醸成に着目してー
- 育児ネットワークとしてのインターネット利用
ーオンラインネットワークによる母親の仲間作りの可能性ー
- 利用者の視点から見た利用しやすい公民館に関する研究
ー施設面に着目してー
- まちづくりをになう住民の学びに関する研究
ー桜川市真壁における町並み保存のプロセスを通してー

在校生からのメッセージ

横山 智之

みなさん、「教育」と聞くと「学校」を真っ先に思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。小学校、中学校、高校と学校生活を過ごし、現在大学入学を目指しているみなさんは、「学校」がなじみの深いものだと思います。しかし、視野を広げてみると、生まれてからの家庭があり、地域、職場、はたまた海外の教育と、私たちの周りには大小あらゆる社会があり、そのすべてで「教育」という営みが行われ、日々過ごしていることに気づくと思います。人生100年時代の中、人々はあらゆる形で学び続ける社会が来ています。私も学校教育に興味を持ち入学しましたが、あらゆる社会の学びに惹きつけられ、今では若者の居場所や人のつながりをテーマに研究に励んでいます。

開設授業科目の例（令和元年度の場合）

- 《講義科目》
比較教育文化論：途上国・中進国の教育を中心にみる。現在の学校教育に影響する要因について学ぶ。
教育社会学Ⅰ：教育社会学は、教育に関わる社会事象を対象とし、社会学の視点と方法で研究する学問である。本講では、前半の教育社会学基礎論ではなく「個人と社会の関係」について、後半「現代社会における人間形成」では、変動する社会のなかで人間形成の役割を担う教育のあり方について検討する。「教育」を通じて社会が個人を規定すると同時に、個人が社会を作り出しているという、両者の循環的関係を伝達することが、本講のテーマである。
- 《演習・実践演習科目》
生涯学習論演習Ⅱ：現代におけるノン・フォーマルな人間の学びにいて、各種の文献講読と討議を通じて考察する。
教育社会学探究Ⅰ：文献を講読し、討議・検討することで、社会学的な探究を必要とする問題に着目する。次いで、問題のテーマ化を図りながら探究の視点を定めることにより、探究すべき課題を導出する。さらに、課題解明のための方法を学習し、調査を企画設計する。質問紙やインタビュー・ガイドの作成を試みると同時に、調査の実施、データの分析、結果の報告について学習する。

地域・国際教育系列では、地域社会での学びである生涯学習・社会教育の分野と海外の教育を学ぶ比較・国際教育の分野の2つを大きな柱として学ぶ系列です。この系列の特徴は、座学での理論はもちろんのこと、実際のフィールドに出て課題を見出し、実践していく場の両方が豊富に備わっていることです。理論とあらゆる社会での教育実践を繰り返し積み重ねていくことで、当たり前だと思っていたみなさんの「教育」を捉える視点が更新され、きっと新たな世界が見えてくることでしょう。

みなさんも一緒に、様々な社会での教育実践を感じることで、自分が経験してきた教育を問い直してみませんか。



教育実習生による授業風景（筑波大学附属小学校）

系列紹介Ⅳ

学校教育開発系列

卒業研究の例

- コミュニケーション・ツールとしてのノート
ー中学校運動部活動におけるノート活用方法ー
- シェイクスピアの人間観 ー道化に着目してー
- 馬の調教と「馬のウェルフェア」から観る人間の教育
ー信頼関係の構築における類似性を手がかりにー
- 小学校の特別支援教育支援員の役割について
ー茨城県における実態調査を通してー
- 進学高校におけるインターンシップ導入の課題と可能性
ー富山県T高校を事例にしてー
- 自己への攻撃性に対するソーシャルサポートの検討
ー自己志向性完全主義の不適応的側面に着目してー
- 不登校への支援におけるスクールソーシャルワーカーの保護者への関わり
- 高校生物教育におけるストーリー性活用に関する研究
ー「免疫」単元を事例としてー
- 発達障害傾向のある大学生におけるピア・サポートの効果的検討
- アクティブ・ラーニングを効果的に導入するための組織づくり
ー中等教育学校を事例にー

開設授業科目の例（令和元年度の場合）

- 《講義科目》
数学教育論：数学教育の新教育課程の目標と内容、数学の教授・学習、学力評価、教材開発等について、最新の話題を取り入れながら多面的に検討する
初等教科教育法（国語）：小学校教員として、国語の授業を行ううえで必要な知識、技能を身に付けることを目的とする。具体的な教材をもとに、講義、演習を行うことができるようにする。
- 《演習・実践演習科目》
カリキュラム開発演習：教育課程編成とカリキュラム開発との異同を前提に、近年のカリキュラム開発を扱った資料を精読する。
教育臨床学演習：現代の児童・生徒の問題、あるいは学校、教師、保護者、教育環境や地域社会の問題の理解、究明、援助について演習と実習を通して学ぶ。そのためテーマに関連する学術論文を受講生がレポートとし、集団討議する。また援助の技法を学ぶ。

学習指導論演習：学習指導および教育方法の諸問題について、基本文献を講読する。また VTR 視聴や学校見学を通して、授業の実践についても学び、受講生の問題関心を深める。

学校教育開発系列のポリシーは、「進化する学校教育のエキスパートを育成する」ことにあります。学校は日々、児童・生徒が学習する場です。児童・生徒の成長とともに教師の関わり方は変わり、社会背景とも絡みながら、学校は進化し続けます。そんな学校教育の基礎・基本を学び、さらにそれを基盤として進化する学校教育に適応し、よりよい方向に変えていく力をもつ人間を育成することが学校教育開発系列の目指すところです。

机の上で学校教育に関する理論を学ぶことだけが重要なではありません。実際に学校に飛び込み、自らの目で学校教育の様々な課題を見出す。その中から自分の研究テーマを設定し、授業で学んだ理論を基盤としながら、自分の観点でそのテーマを追究していく。そうすることが、学校教育の理解をさらに深め、よりよい学校教育を構築していくことにつながっていくとわれわれは考えています。特に初等教育学コースでは、附属小学校との連携のもと、現場に根差した実践力、研究力の育成を図ります。

さあ、あなたも学校教育開発系列で、世界を担う学校教育を極めてみましょう！

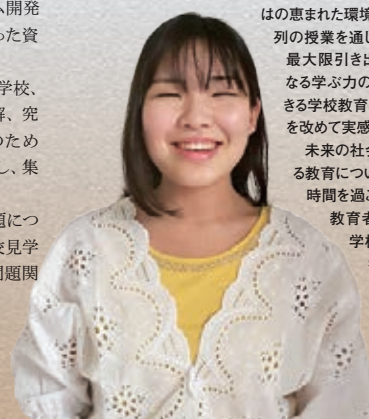
在校生からのメッセージ

貫志 光加里

「教育」という言葉を聞いたとき、皆さんが真っ先に思い浮かべるのは「学校」ではないでしょうか。また同時に、そこには「学校の先生」という存在も浮かび上がって来ると思います。ところで、学校の先生の仕事は何でしょうか。なぜ、学校で学ぶのでしょうか。そのような「学校における教育」とは何かについて、理論と実践の両面から学びを深めるのが、学校教育開発系列です。

学校教育開発系列では、学校における教育という観点から、各教科の教育目的や内容、指導法などの学習指導のみならず、学校における子どもたちを取り巻く、いじめや不登校などの問題に取り組む生徒指導などを学びます。また本系列の初等教育学コースでは附属小学校の先生方から教科指導法を学び、その後の教育実習でも指導をして頂きます。小学校教育の分野をリードされている先生方から、直接教えていただける機会を得られることは、筑波ならではの恵まれた環境だと言えます。私は本系列の授業を通して、子どもたちの良さを最大限引き出し、生涯学習の基盤となる学びの育成に貢献することができると感じています。

未来の社会を担う子どもたちに対する教育について、子どもたちが多くの時間を過ごす学校について、また、教育者としての教師について、学校教育開発系列でも考えてみませんか。皆さんと学ぶことを楽しみにしています。



後輩達へ 卒業生の言葉

井口 謙【RKB毎日放送】

●平成29年度卒業



平成29年度に教育学類を卒業し、現在は福岡県の放送局でアナウンサーとして働いています。「教育学」と「マスコミ」、一見すると全く違う分野のように感じられるかもしれませんが、しかし、大学時代に学んだことは今の私の仕事を大きく支えてくれています。アナウンサーとして「伝える力」はもちろん、「聞く力」も求められるのです

が、それは教育現場でも同じことだと思います。教育臨床学を専攻する中で様々な人にインタビューをしたこと、教育実習での授業の経験、また所属していた陸上競技部での活動、大学時代の時間のすべてが今の仕事に繋がっていると感じています。

筑波の教育学類は非常に選択肢が豊富だと感じます。教育学類所属というと、「先生になるの?」とよく言われましたし、自分自身も教師を目指して進学する際、教育学は閉鎖的だというイメージを持っていました。しかし実際は、分野はとて多く扱う範囲も様々で、それぞれの分野のエキスパートである先生方のご指導を受けることができますし、卒業生の進路も千差万別です。そして何より、教育学類での学びはその後の進路にかかわらず大きな自らの財産になります。

楽しい大学生活を送りながら、様々なことに挑戦してみてください!

榎 紗也加【リクルート】

●平成30年度卒業



平成30年度に教育学類を卒業し、現在はリクルートという企業で働いています。仕事内容は多岐に渡りますが、「新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人ひとりが輝く豊かな世界の実現を目指す」ことを理念に掲げている企業です。「教育を学んだのに、民間企業で働いているの?」と思った方もいるかもしれませんが、教育学類で学んだことは今の私に大きな影響を与えてくれています。

私は「自分らしい生き方とは何だろう」という漠然とした疑問を持ちながら教育学類に入学しました。テストで良い点を取るための教育ではなく、子どもたちが本当の「自分らしさ」を見つけれようような学校教育制度を作りたいと思っていたからです。入学後、様々な分野のエキスパートの先生方と出会い、あらゆる知見に触れ、「教育=学校」であるという考え方が一変しました。教育とは、人生そのものに密接に関わるものであり、学校の中だけで完結するものではないと気づくことができたのです。私が今の進路を選んだのは、その気づきがあったからだと思います。

筑波には、あらゆる角度から学びを深められる環境があります。皆さんの大学生活が多くの出会いと気づきに溢れるものでありますように。応援しています!

米本 央【法務省】

●平成29年度卒業



私は法務省矯正局に入省し、現在は法務教官として勤務しています。法務教官とは、非行をして少年院などに収容されている少年の更生と再犯の防止を目標に教育をする仕事です。

子どもの頃から、なぜ学校に通わなければならないのか不思議に思っており教育学類に入学しました。しかし、教育学を学ぶなかで、家庭の環境や経済的状況

に関係なく、全ての人が一定の水準を持った教育を受けることができるためにはどうすればいいのかへと関心が移り変わりました。義務教育制度では、ある一定の年齢に達した子どもは皆学校に通い、義務教育修了程度の能力が身につくことになっているけれど、不登校や病気で入院している子は学校に通えていないし、学校に通っていても授業についていければ義務教育修了程度の能力を身につけるのは難しいということを認識しました。学類での学びを通し、制度と実態の差を問題として捉えた時、制度の枠から外れてしまう子があり、その少数の子について考えていきたいと思うようになったことが、現在の仕事につながっています。

筑波では、教育学の様々な分野があり多角的に学ぶことができます。たくさんの方々に触れ、それまでの自分にはなかった見方をどんどん吸収していただきたいと思います。

長瀬 利勝【北海道公立高校】

●平成30年度卒業



私は現在、稚内で教員をしています。5月下旬に桜がやっと咲き、6月でも最高気温が20度前後の海と風の町で、授業と部活をメインに、高校生たちと楽しく毎日を過ごしています。

わたしははっきりとしたきっかけもなく、いつの間にか将来の夢が教員になってました。ただ、筑波大学という目標ができた理由は明確で、中学校の時

の担任の先生に「教育を学ぶなら筑波だ」と言われたからです。しかしその時は、筑波大学の教育学が深い歴史を持つことはもちろん、つくばがどこなのかもわかりませんでした。

教員となった今やっと、筑波大学で教育学を学ぶ強みを1つ挙げられそうです。それは、教育に対する視点を幅広く身につけられることです。筑波大学には、教育学のあらゆる分野のエキスパートがいっぱいいます。したがって、同じ教育に関する問題に対して、異なる視点やアプローチが存在します。学類の4年間ではこの視点の多彩さに驚き、「こういう見方があるのか」という発見をたくさんしました。今教員として教育の現実的な問題にぶつかったとき、経験値の少ない新米を助けてくれるのは、視点やアプローチの多彩さだと実感しています。

教員紹介

氏名	研究テーマ
教育哲学	
平井 悠介	現代英米圏の教育哲学、教育における平等論とシティズンシップ教育論
日本教育史	
平田 論治	近代日本教育国際関係史
道徳教育	
田中 マリア	道徳教育、ルソーの教育思想に関する研究
キャリア教育学	
藤田 晃之	キャリア教育論(日・米・デンマーク比較研究)、教師教育制度論
特別活動学	
京免 徹雄	教科外活動の国際比較、開発的生徒指導論、フランスの進路指導
教育制度学	
藤井 穂高	教育改革、フランスの教育制度、幼児教育
比較・国際教育学	
タスタンベコワ クアニシ	言語教育政策、旧ソ連(CIS)諸国・中央アジア諸国の教育政策、ユネスコの教育政策
学校経営学	
佐藤 博志	学校経営論、オーストラリアの教育改革
浜田 博文	学校改善論、アメリカの学校経営政策論、教師教育論
生涯学習・社会教育学	
上田 孝典	日中の社会教育・生涯学習実践研究、近代中国の社会教育史研究
学習指導学	
樋口 直宏	教育方法学、授業研究、批判的思考論、小中一貫教育
教育社会学	
徳永 智子	日本における移民と教育、マイノリティの教育支援、エスノグラフィー
教育臨床学・生活指導学	
庄司 一子	児童生徒の抱える問題、仲間関係、教師との関係、教師と生徒のメンタルヘルス
人文科教育学	
長田 友紀	国語教育、コミュニケーション教育、音声言語教育の研究
甲斐 雄一郎	国語教育史、言語表現論
名畑目 真吾	英語教育、英文読解プロセス、小学校英語
社会科教育学	
井田 仁康	社会科・地理教育の理論的・実践的研究
唐木 清志	社会科教育学、アメリカ公民教育論
國分 麻里	社会科・歴史教育の理論的・実践的研究、韓国の社会科教育研究
理科教育学	
遠藤 優介	理科教育目的論、ドイツ科学教育論
山本 容子	理科教育、生物教育、環境教育論
数学教育学	
磯田 正美	算数・数学の学習指導法の研究、数学教育の国際共同研究
清水 美憲	数学的思考の認知的研究、数学教育の国際比較
蒔苗 直道	数学教育史

卒業後の進路



大学院進学者からのメッセージ

香川 圭

教育学学位プログラム
教育基礎科学サブプログラム



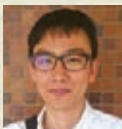
私は筑波大学の人間総合科学研究群（教育学）に進学し、現在は大学院生として教育哲学領域の研究を進めています。教育哲学とは、字義どおり、社会のなかで起きている教育現象あるいは教育的現実についての哲学的考察を主立った特徴とする学問です。このように堅苦しく書くとなにか難しいことをしているな」と感じると思います。しかし、たとえば「学校ってなんで行かなきゃいけないのだろう」「ニュースで見たけど、あの教育って本当に良いことなの？」のような、誰もが一度は抱えたことのある、そうした疑問のなかに教育哲学的な営みが潜んでいるのだと思います。そして、そのような視点を教えてくれたのが教育学類での学びでした。

赤裸々に言ってしまうと、私の教育学類への志望動機には強い熱意はなく、なんとなく入学しました。「教育なんてあって当然のものだ」「いまさら何を研究しろ」とくらいの思考さえ心の片隅に秘めているほどでした。しかし、教育学の多彩な分野に精通している先生方に出会い、むしろ自明視されてきた教育システムだからこそ、それを問いなおすことに研究の可能性が広がっていることを学びました。教育の“当たり前”を疑う。これは勇気がいることです。しかし同時にワクワクもしませんか？

教育学類での学びは常に「再発見」の連続です。皆さんもぜひ楽しいキャンパスライフと一緒に、色々な「再発見」を実感してみてください！

村田 翔吾

人間総合科学研究科
学校教育学専攻



私の専門領域は数学教育学です。学類2年生の授業において「分数のわり算は、なぜひっくり返してかけるのか。」という質問に答えられなかったことをきっかけに、研究を始めました。当時、「数学を教えることに関する研究領域があるんだ!」と感銘を受けたことは、今でも覚えています。教育学類には、教育に関わる多様な研究領域があるため、自分の専門領域を深めると同時に、多様な視点から自分の領域を見ることが出来ます。教育学類の4年間で、各領域の第一線で活躍されている先生方から御指導を頂いたり、興味関心の異なる仲間たちと議論したりしたことは、大学院に進学した現在でも貴重な経験です。ぜひ教育学類へ入学して、教育について考えてみませんか。

長 創一朗

人間総合科学研究科
ヒューマンケア科学専攻



高校生の頃に読んだ漫画の「100年先の未来を変えるのは教育だ!」というセリフが頭から離れず、教育について学びたいと思い、筑波大学に入学しました。大学では、先生方や友人たちと議論を重ねる中で、教育について自身の数少ない経験から「正しい」と思っていたことが覆される場面が多々ありました。無批判的に「教育＝良いもの」とするのではなく、状況によっては人々に悪影響を与えうるものとして教育の営みを捉えることができるようになったことが、自分が教育学類で学んだ一番の収穫だったと思います。このような教育学類での学びは、教育を研究する人はもちろん、教員や企業に就職する人にとっても非常に意義のあることだと思います。

細野 裕暉

教育研究科
スクールリーダーシップ開発専攻



中学生の頃から学校の先生になることが夢で、「大学卒業後すぐに高校の先生になるんだろうな」と高校生の頃は漠然と考えていました。そのときは大学院への進学など頭の片隅にもありませんでした。しかし、教育学類で様々な角度から教育学を学んでいくうちに、教員として働く前に、もっと教育に関する専門的な知識を身につける必要があるのではないかと思うようになり、修士課程の教育研究科への進学を決めました。教員養成系の大学ではなく、教育学類に入学したからこそ、このような進路を考えるようになりました。教育をめぐる諸問題や取り巻く状況を多角的・批判的に捉える態度が養われるのが、教育学類の魅力だと思います。

卒業生の進路

教育学類は2011年3月に第一期の卒業生を送り出しました。前身である人間学類教育学主専攻と同じく、社会の様々な分野に進んでいます。

下のグラフは、人間学類教育学主専攻と教育学類の過去5年間の卒業生の進路先を示したものです。「就職」は、「企業・団体」「教員」「公務員」の3つに分けて示してあります。

このグラフからわかることは、大まかな傾向として、「就職」が50%程度、「進学」が30%程度、そして、「その他」が20%程度ということです。「その他」に含まれている学生の多くは、就職や進学の準備をする人たちですが、これらの人たちも次年度あるいは数年の内に、就職あるいは進学を決め、希望する進路先へと進んでいます。

最近の傾向としては、「教員」の中でも小学校教員になる人が増えていることです。また大学院の修士課程へ進学した後で、教員となっていく人も多くなっています。

大学院進学

大学院進学者の多くは、同じ筑波大学の教育学学位プログラムに進学しています。教育学学位プログラムの前期課程（令和2年度より改組）は、教育基礎科学サブプログラム・次世代学校教育創成サブプログラム・国際教育サブプログラムの3コースに分かれており、修了後は小中高の教員や後期課程に進学して研究者を目指して

いきます。その他にも、筑波大学にある他の学位プログラムや他大学の大学院に進学する人もいます。

大学卒業後の主な就職先

〈企業・団体〉
みずほ銀行／JR東日本／日本生命
三井住友銀行／三菱東京UFJ銀行
九州電力／商工中金／静岡銀行／山二ガス
みずほフィナンシャルグループ
しまむらグループ／三井物産
第一ゼミナール／湘南ゼミナール
四国電力／共同通信社
茨城新聞社／常陽銀行／住友不動産
くまざわ書店／明治図書／全日空
秀英予備校／ベネッセコーポレーション
早川書房

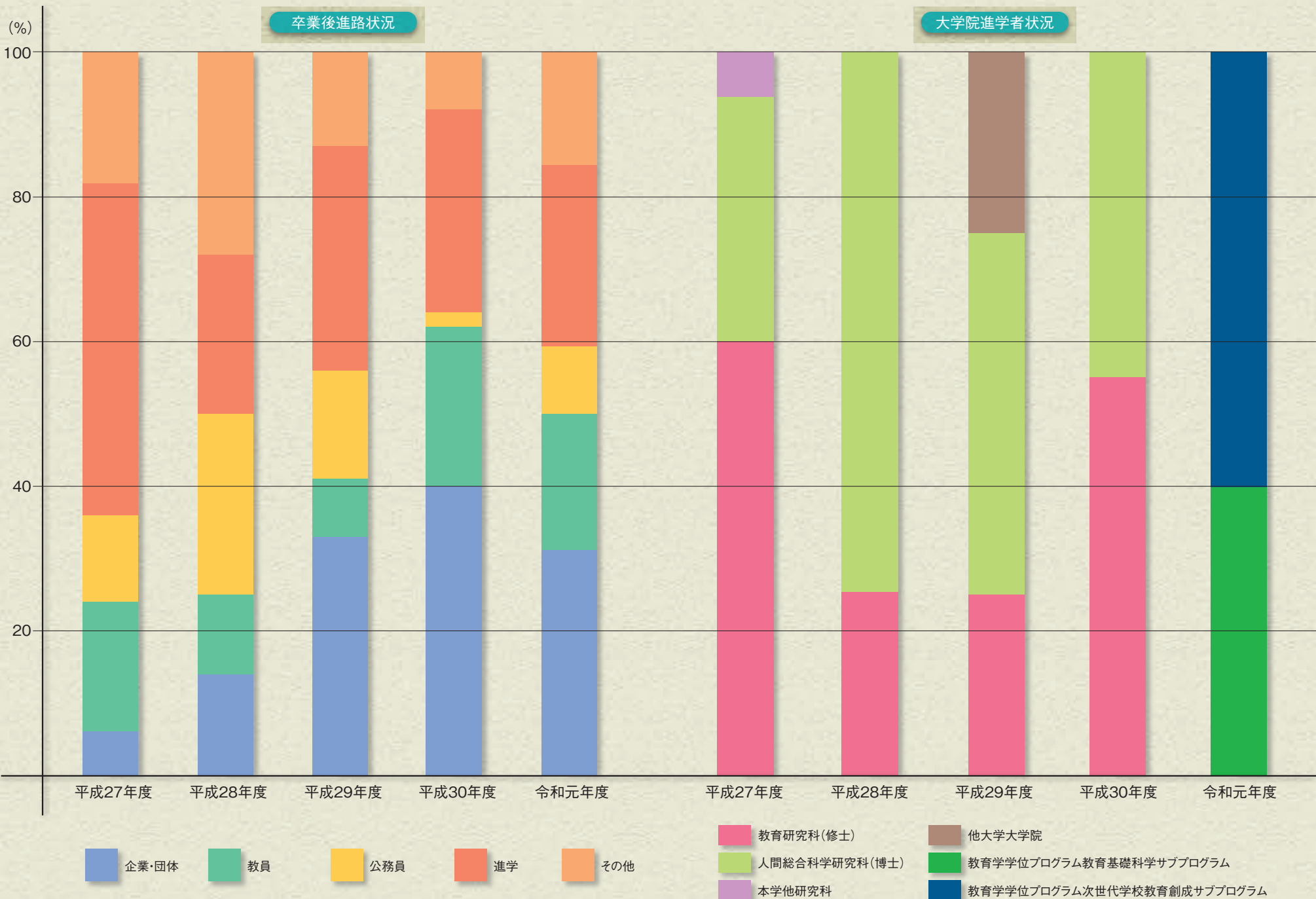
〈教員〉
長崎県／大阪府／鹿児島県／滋賀県
山梨県／神奈川県／千葉県／茨城県
埼玉県／東京都／石川県／福岡県
愛知県／兵庫県／広島県／横浜市 ほか

〈公務員〉
北海道庁／福島県庁／愛知県庁／千葉県庁
つくば市役所／法務省／文部科学省
警視庁／茨城県警察本部
港区役所／水戸市役所／茨城県庁 ほか

大学院修士課程修了後の主な就職先

〈教員〉
兵庫県／東京都／栃木県／青森県
香川県／静岡県／茨城県／埼玉県 ほか

〈公務員〉
横浜市役所／文部科学省 ほか



教育学類一 16



筑波大学 学群入学試験に関する
お問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課 入試第一係
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
Tel. 029-853-6007
Fax. 029-853-6008

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html>

University of Tsukuba

University of Tsukuba

筑波大学

<http://www.human.tsukuba.ac.jp/psychol/college/>



人間学群
School of Human Sciences

心理学類
College of Psychology

伝統 Tradition

何物にも代え難い歴史の蓄積と知的精神の継承

流動 Flow

古い型にとらわれずに新しい形を追い続ける志向性

自由 Freedom

自由な発想と独自の人間観に基づく創造的な研究活動

多様 Variety

真理の追究のために集った多彩な専門家集団

学際 Interdisciplinary

心理学の枠だけでは縛られない視野の広さ

心と行動の
統合的理解をめざして

2021

カリキュラムのコンセプト

1.体系的なカリキュラム

共通科目から個別的な専門科目、そして卒業研究まで、段階的に学ぶことができます。

2.豊富な科目構成

多彩な専門科目が用意され、各自の興味関心に従って、より深く学ぶことができます。

3.多様な心理学的知識の学習

多様な心理学の研究領域を、幅広く偏りなく学びます。

4.新たな知識を「産み出す」ためのメソッド

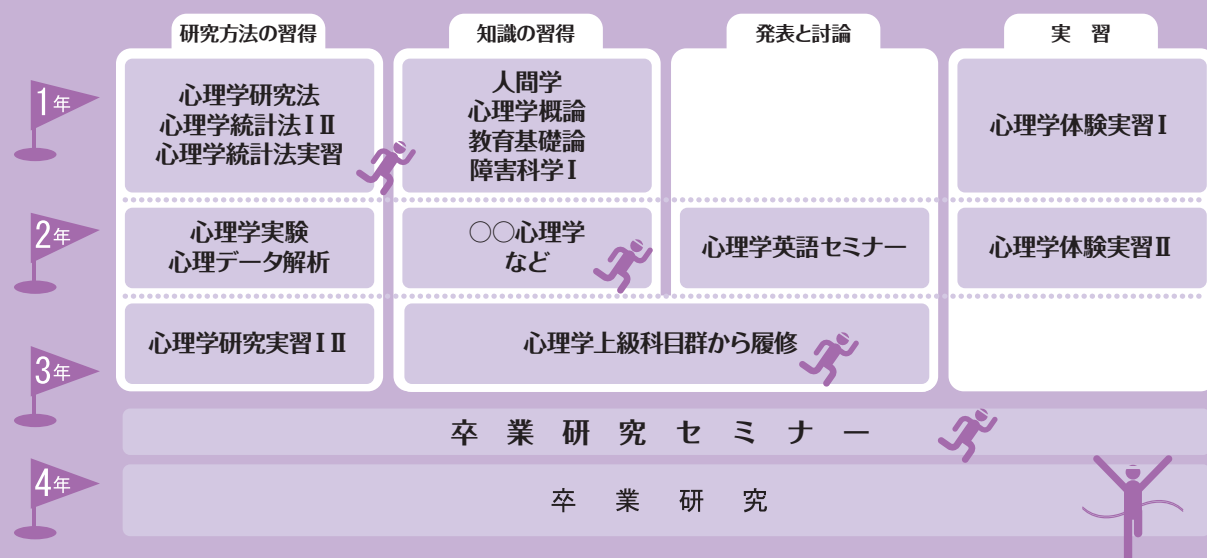
知識を産み出すための方法を講義や実験で学び、ツール(統計、英語)もしっかり身につけます。

5.実践的科目の充実

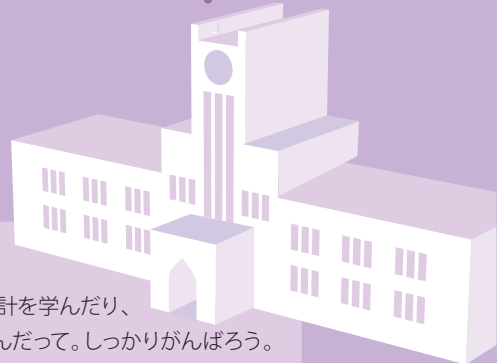
実践的・実習的な演習科目も用意されており、リアルな学びが得られます。



人間学群心理学類生の一般的なカリキュラムのイメージ



こうなる! 心理学類の4年間



概論を学ぶ 1年生

1年次の春から、心理学の授業が始まるよ。
概論では英語のテキストを使って勉強するんだね。大学生って感じ。統計を学んだり、研究法を学んだり、1年次の学習も将来の卒業研究につながっていくんだって。しっかりがんばろう。

実験レポートの 2年生

2年次は心理学の実験が始まった。心理学って実験してデータを取って、分析して、レポートを書くんだね。統計の授業で習ったことをどんどん使っていくよ。講義科目も、概論だけではなく、いろいろな〇〇心理学を学べる。少しずつ、心理学に詳しくなっていくのが自分でもわかる。

研究を深める 3年生

3年次は、グループに分かれて、院生の人や先生と一緒に、本格的な研究をする授業が始まる。研究計画から最後の発表までやり終えると、心理学の研究がどんなものか、わかってきた気がする。卒業研究の準備もそろそろ始めよう。

論文を完成させる 4年生

心理学の知識も学んだ、研究のやり方も身につけた、データ分析の技法も使えるようになった、先行研究も読み込んだ。4年間の集大成は自分だけのオリジナルな研究に挑戦すること。就活・公務員試験・院試、進路はそれぞれ違うけど、友だちと支え合って進路と卒論の両方に全力投球するぞ!!

学び方いろいろ



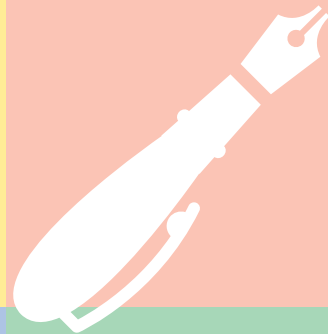
集中講義 心理学類では心理学のほぼ全分野を学べますが、それらに加えて、他大学の先生をお招きして、短期間集中的に行われる授業も開講されます。

図書館 筑波大学には全国有数の開架式図書館があります。東京文理科大学や東京教育大学の古い文献もあり、心理学関係の蔵書はとても充実しています。自由に使えるパソコンが100台以上あり、予約するとセミナー室も借りられます。

研究会 教員や大学院生が主催している心理学関係の研究会がいくつもあり、正規の授業では得られない知識や経験を得ることができます。

留学 人間学群の主な協定校として、ドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン、アメリカの南インディアナ大学、ニューヨーク州立大学・オスウェゴ校、大韓民国の大邱大学校、台湾の国立彰化師範大学などがあります。海外の大学で学ぶための方法はいろいろあります。あなたの目的に合ったプログラムを見つけてください。

資格と免許



就職

心理学類の就職状況は多様なものです。就活して企業に就職する人もいれば、試験を受けて公務員や教員になる人もいます。また、4年間の大学生活のあと、進学や留学をして、そのあとで就職する人たちもいます。また、フリーランスの職を選んだ学生も、就職した後20代のうちに起業した卒業生もいました。

心理学の専門職となると、国家公務員・地方公務員の心理職、家庭裁判所調査官などがあります。

企業にも、公務員にも、教員にも、心理学を学んだ多くの卒業生がいますので、みなさんも自分の好きな道を選んでみてください。

心理学類の進学状況ですが、卒業生の30～40%くらいの人たちが、大学院へ進学しています。なかでも、筑波大学大学院人間総合科学研究科への進学が多いです。博士前期課程では、人間総合科学研究科の心理専攻、感性認知脳科学専攻が、心理学に関連する教育分野を置いています。そのほか、修士課程の教育研究科や、筑波大学の他の学問分野の大学院に進学する人もいます。また、自分の研究上の必要性から、他大学の大学院に進学したり、外国の大学院を希望する人もいます。

進学



小川 園子

Ogawa Sonoko

- ①神経科学・行動神経内分泌学
- ②行動神経科学実験実習
- ③情動・社会行動をはじめとする様々な行動の発現が、脳に作用するホルモンの働きによってどのように制御・調節されているかについて研究しています。

加藤 克紀

Kato Katsunori

- ①動物心理学
- ②学習・言語心理学
- ③若齢期における社会的環境と社会性の発達との関係、空間構造と情動行動との関係などに興味をもって研究しています。

原田 悦子

Harada Etsuko

- ①認知心理学、認知工学、認知科学
- ②知覚・認知心理学、心理学上級(認知心理学)
- ③実験的基礎研究では「認知的高齢化」ならびに「人の学習、知識の獲得」、フィールド研究では、人にとっての「使いやすさ」研究を行っています。

登藤 直弥

Todo Naoya

- ①教育測定学、心理統計学、統計学
- ②心理学統計法(I、II、実習)、心理データ解析
- ③テストデータを中心に、心理学の研究で得られるデータの解析方法全般に興味を持っています。

パブリデス コンスタンティン

Pavlidis Constantine

- ① Behavioral Neuroscience
- ② Research Methods in Psychology
- ③ The role of sleep in memory consolidation; neuronal functional organization of the hippocampus and related brain structures for spatial navigation; effects of stress in neuronal plasticity.

山田 一夫

Yamada Kazuo

- ①行動神経科学、行動神経内分泌学
- ②神経・生理心理学
- ③動物を用いて、学習・記憶の脳内メカニズム、特に忘却に関する研究に取り組んでいます。

相川 充

Aikawa Atsushi

- ①対人社会心理学
- ②社会心理学
- ③ソーシャルスキルの理論とトレーニング、および「感謝」に興味を持っています。

高橋 阿貴

Takahashi Aki

- ①行動神経科学、行動遺伝学
- ②心理学上級(行動神経科学)
- ③社会行動や情動に関わる生物学的基盤の研究をマウスを用いて行っています。

綾部 早穂

Ayabe Saho

- ①感覚知覚・認知心理学、嗅覚
- ②知覚・認知心理学
- ③意識的・無意識的な経験によって情報の認知の仕方がどのように変わるのかについて興味があります。特にニオイの認知メカニズムの研究を行っています。

外山 美樹

Toyama Miki

- ①教育心理学
- ②教育・学校心理学、心理学上級(教育心理学)
- ③教室環境(教師、友人など)が子どもに及ぼす影響や学習の動機づけに興味をもって研究しています。

岡田 昌毅

Okada Masaki

- ①キャリア心理学、産業・組織心理学
- ②産業・組織心理学
- ③キャリア発達に関連する理論とビジネス経験を融合し、個と組織のあり方について考えています。

藤 桂

Fuji Kei

- ①社会心理学
- ②社会・集団・家族心理学
- ③インターネット上での人々の振舞いや、メディアにまつわる様々な社会問題を研究しています。



濱口 佳和

Hamaguchi Yoshikazu

- ①発達臨床心理学、発達心理学
- ②心理学上級（発達臨床心理学演習）
- ③児童・青年の社会的情報処理、攻撃性、主張性。親の養育スキルと育児ストレスなどについて研究をすすめています。

安藤 智子

Ando Satoko

- ①発達臨床心理学
- ②発達心理学、心理学上級（発達臨床心理学）
- ③親と子のメンタルヘルス、アタッチメントなどに関する研究をしています。

藤生 英行

Fujiu Hideyuki

- ①カウンセリング心理学
- ②心理演習
- ③カウンセリング訓練法、外在化・内在化問題行動に共通するリスク要因・保護要因、症状悪化に關与する認知的脆弱性の3本柱の研究を進めています。

沢宮 容子

Sawamiya Yoko

- ①臨床心理学
- ②臨床心理学概論
- ③認知行動療法に関する基礎研究と臨床応用、およびポジティブ心理学の臨床実践への応用に興味を持っています。

原田 隆之

Harada Takayuki

- ①臨床心理学、犯罪心理学
- ②司法・犯罪心理学
- ③臨床心理学、なかでも非行・犯罪臨床やアディクション臨床が専門です。エビデンス・ベイストをキーワードに、非行少年や犯罪者、アディクション患者に対する有効な治療の開発に関する研究を行っています。

杉江 征

Sugie Masashi

- ①臨床心理学
- ②心理学上級（臨床心理学演習）
- ③自律訓練法の基礎的・臨床的研究、大学生と学生相談、心理臨床・教育臨床の実践研究などです。

大川 一郎

Okawa Ichiro

- ①老年心理学、臨床心理学
- ②心理学上級（中高年の心理学）
- ③ケアを必要とする高齢者への心理的援助や知的能力維持にかかわる日常生活上の要因などに関心をもっています。

佐藤 有耕

Satoh Yuhkoh

- ①青年心理学
- ②青年心理学
- ③思春期・青年期とはどのような時期なのかを自己、感情、友人関係などからとらえたいと思っています。

大塚 泰正

Otsuka Yasumasa

- ①臨床心理学
- ②健康・医療心理学
- ③働く人たちのメンタルヘルスをよくしたり、いきいき職業生活が送れたりするようになるための研究と実践を行っています。

青木 佐奈枝

Aoki Sanae

- ①臨床心理学
- ②心理学的支援法、心理学的アセスメント
- ③心理査定 of 臨床活用、医療における心理支援、特に心的外傷と解離に関する領域に興味を持っています。

松田 壮一郎

Matsuda Soichiro

- ①行動デザイン、応用行動分析学、発達心理学、自閉スペクトラム症
- ②福祉心理学、心理学上級（行動デザイン）
- ③「行動変容の技術を用いて、人々がより幸せを感じられるように！」を目標にして、人工知能研究者と連携をしながら、最新の行動イメージング技術を用いた研究をしています。

菅原 大地

Sugawara Daichi

- ①臨床心理学、感情心理学、ポジティブ心理学
- ②感情・人格心理学
- ③ポジティブ感情の機能に興味があり、最近では精神疾患との関連について研究しています。

飯田 順子

Iida Junko

- ①学校心理学
- ②教育・学校心理学、心理学上級（学校心理学）
- ③小中高校での学校心理学・スクールカウンセリングの実践や研究を行ってきました。学校心理学における海外との比較文化的研究にも、興味を持っています。

● 心理学類を志望するみなさんへ

心理学は、人間の心を科学的に追究する学問です。私たちは、日常生活の中で、文字を読み、景色を愛で、思い出にふけったり、作戦を練ったり、友人と喧嘩をしたり、喜んだり、あるいは悩んだりといったさまざまな心的活動を経験します。心理学はこのような心の仕組みを実証的に科学的に研究します。心理学はこのような心の仕組みを科学的に研究します。心理学は間口が広く、かつ心理学以外のさまざまな学問領域との接点を持ち、深い人間理解が可能となる学問です。

心理学を学べる大学は全国に数多くありますが、生理、比較、感覚知覚、認知、学習、心理測定、発達、生涯発達、発達臨床、社会、対人関係、集団、臨床、カウンセリング、人格など多岐な分野にわたる心理学者を擁していることが筑波大学の特徴です。入学後は、1年次から心理学について学び始め、2年次、3年次と学習を深めていき、4年次に各自の興味関心に基づいて卒業研究を行います。

社会には心理学類で学んだことを生かせる場があり、一般企業に就職する人も多く、専門を生かした職業(少年鑑別所や刑事施設の法務技官(心理)や家庭裁判所の調査官、児童相談所の児童心理司・心理判定員など)に就く人もいます。学校の教員になる人もいます。また、研究者や高度専門職業人を目指して大学院に進学する学生もかなりの数にのぼります。みなさんも私たちと一緒に、心の仕組みの不思議を探検してみませんか。

心理学類長 佐藤 有耕

困った人を助けたい、カウンセラーになって悩みを持つ人の力になりたい!——これが、私が心理学類を志したきっかけでした。しかし、実際に学んでみると、心理学で扱う領域はこれだけに止まりませんでした。行動、発達、対人関係、社会、集団、認知、知覚、記憶、そして臨床など、あらゆる面から人間の「心」にアプローチする、それが心理学です。よく「心理学をやっている人は他人の心が読めるの?」などと聞かれますが、そんなことはありません。心理学は科学であり、目には見えない人間の精神活動を脳科学や生理学、統計の知識をベースとして探求する学問です。

筑波大学人間学群心理学類では、心理学を研究するために必要な統計の知識や方法論から様々な領域の心理学の最先端まで学ぶことができます。今あなたが興味を持っている「心理学」だけでなく、より幅広い知見を得て、そして自分の興味関心に沿ってさらに追究するための絶好の環境が整っています。かつては臨床心理学を専門にしようと心に決めていた私も、今ではどの領域を専門にするかに頭を悩ませています。皆さんも是非、素晴らしい先生方や仲間たちとともに、人間の「心」を探求してみませんか?

心理学類一期生 市川 玲子

アクセス (詳しくは筑波大学ホームページをご参照下さい。)



電車+バス	秋葉原駅	つくばエクスプレス(快速) 45分	つくば駅・つくばセンター	関鉄バス約15分「筑波大学循環バス(右回り、左回り)」あるいは「筑波大学中央」行きにご乗車下さい。土浦駅やひたち野うしく駅からは「筑波大学中央」行きにご乗車下さい。		
	上野駅	常磐線(特急) 40~50分			土浦駅	バス約35~40分
		常磐線(各停) 60分			ひたち野うしく駅	バス約40~50分
高速バス	東京駅	JR・関鉄バス(八重洲南口発) 約65分		「筑波大学」行き約75分		
	羽田空港	京浜急行・関鉄バス 約120分				
	成田空港	エアポートライナー(NATTS) 約60分				
車	常磐自動車道 桜土浦IC		約20分			

筑波大学中央

筑波大学人間学群 障害科学類

College of Disability Sciences 2021
School of Human Sciences, University of Tsukuba

障害を理論的・科学的に探求する。
共生社会の実現に貢献する。



多様な学問の融合から、新たな学問へ そして社会に貢献する人材育成へ

教育目標

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

コンセプト

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

特徴

- ・学生の関心や目標に応じた **3つの履修モデル**
- ・**特別支援学校教員免許状**では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）に関する免許の取得が可能
- ・**社会福祉士国家試験受験資格**の取得が可能
- ・**教職免許** 特別支援学校／高校（福祉）／その他、中学校・高校の教科

目次

障害科学類の教育目標	27
障害科学類のコンセプトと特徴	27
学類長あいさつ	28
障害科学の歩み	28
3つの履修モデルと取得可能資格	29
4年間の履修の進め方	30
教員紹介	31
研究室紹介	32
授業紹介、海外留学、研修	33
障害科学類生による学生生活、学類紹介	35
卒業後の進路	37
進路実績	37
附属学校・関連組織	39
入試情報	40

学類長あいさつ



岡 典子

障害科学類には、ふたつの目的があります。

ひとつは、障害のある成人や子どもたちの日常生活や学校教育、社会参加等を支援できる専門家を育成することです。

もうひとつは、障害に関する知識をき

かけとして、そもそも人間とは何か、社会とはどうあるべきかといった普遍的な思考をもち、行動できる人材を育てることです。わたしたちの社会は、さまざまな特性や個性をもつ人びとによって成り立っています。障害もそうした特性のひとつです。障害のある状態は人間にさまざまな制約をもたらしますが、そうした制約を軽減し、乗り越えるために必要な知識や技術を特別支援教育学、心理学、生理学、福祉学、社会学などの複合的学問体系から追究するのが障害科学です。

障害は決して特別な現象ではありません。世界保健機関（WHO）は、障害とはすべての人間がもつ健康状態の連続体であると定めています。障害のある人が幸福の追求に困難を感じる社会が、じつは万人にとっても過酷な社会であることも、人類の長い歴史からわかっています。だからこそ、障害について学び、考えることは、単なる知識の深化や技術の獲得にとどまらず、人間と社会の本質を探究し、すべての人が共に生きる社会を志向するための羅針盤となるのです。

人類と社会に貢献する人材を育てる障害科学類で、ともに住みやすい社会をつくる学問を探究しませんか。

障害科学の歩み

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。



カリキュラムの特徴 3つの履修モデルと 取得可能資格

障害科学類では、学修の参考のためにいくつかの履修モデルを示しています。履修モデルは、その通りに授業をうけなければならないものではありません。ただし、資格と関係する履修モデルは、必要科目が過不足なく含まれていますので、モデルが基準になるでしょう。履修モデルを基に、学ぶ人の希望と意欲に沿った学修計画を立て、自主的に学ぶことになります。

障害科学履修モデル

障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。



特別支援教育学履修モデル

わが国における特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指すものです。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある幼児児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関わる広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）すべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



社会福祉学履修モデル

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



1年・・・障害科学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	自閉症スペクトラム障害臨床実習、重複障害の理解と支援、聴覚障害とリテラシー、高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど	

1年・・・特別支援教育学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	特別支援学校教諭免許取得に必要な専門科目、視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、運動障害教育学、健康障害の指導法、知的障害学校教育論、特別支援教育実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど、中学校・高等学校教諭免許（教科）取得のための学群内外の科目の履修など	

1年・・・社会福祉学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、相談援助の理論と方法、相談援助の基礎と専門職、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど	

障害科学を学ぶモチベーションを高め、学びの基礎を整える

1年
障害科学の基本的な原理を学び、実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、障害科学を構成する専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解できるようにします。

基礎的能力を身に付け、将来の進路を考える

2年
各専門分野の基礎を学び、障害科学の方法を知ること、自らの修学の到達目標や卒業後の進路を志向します。

障害科学の研究・基礎的実践技術の習得

3年
さまざまな演習や実践を通じて、障害科学の研究手法の基礎を習得したり、自分の選んだ進路に応じ、特別支援教育、社会福祉、発達臨床などに関する実践能力の基礎を身に付けます。また、こうした研究・実践技術に関するカリキュラムは、大学院人間総合科学研究科（前期課程）へ進学し、6年間で習得することを想定して作られています。是非、大学院進学を志してください。

障害科学全般にわたる基礎的能力の養成

4年間の履修の進め方

教員紹介

多様な障害種別、研究手法を網羅するスタッフ陣



研究室紹介

専門家、研究者としてのキャリアにつながる充実した研究環境

視覚障害学

柿澤 敏文 弱視児（者）の視覚特性と ICT、視覚障害原因、アジア・アフリカの視覚障害
小林 秀之 視覚障害児の学習活動に対する教育的支援
佐島 毅 視覚障害学、重複障害児の心理と教育
和田 恒彦 理療（鍼、灸、あん摩マッサージ指圧）科教育、スポーツ障害、障害者スポーツ
緒方 昭広 ペインクリニック領域の鍼灸・手技療法

徳竹 忠司 視覚障害者への理療技術指導法・東洋医学的物理療法（理療）の生体反応
濱田 淳 理療教育に関する研究、泌尿生殖器系疾患に対する鍼治療
宮内 久絵 視覚障害教育、インクルーシブ教育
ラミチャネ・カマル 諸外国における障害と教育、雇用の連関に関する研究

聴覚障害学

鄭 仁豪 聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究
原島 恒夫 聴覚障害児（者）の聴覚情報処理、早期教育に関する臨床発達心理および環境論的アプローチ

加藤 靖佳 聴覚障害者の音声・聴覚・音楽・コミュニケーションに関する研究
左藤 敦子 聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究

知的・発達・行動障害学

柘植 雅義 特別支援教育推進に関する教育学的・行政学的研究／学校における指導・授業に関する教育学的・心理学的研究
熊谷 恵子 学習障害児の学習支援（算数困難等）に関する研究、発達障害児者の感覚過敏に関する研究
野呂 文行 発達障害児の行動心理学的研究
岡崎 慎治 知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究
小島 道生 知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウン症児者の発達支援に関する研究

米田 宏樹 知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究
佐々木 銀河 大学における障害学生支援、発達障害児者に対する支援技術、スタッフトレーニング・マネジメント
趙 成河 自閉症スペクトラム症児への応用行動分析的アプローチ
石塚 祐香 発達障害児に対する応用行動分析学に基づくコミュニケーション発達支援

運動・健康・高齢障害学

竹田 一則 障害児の医学・生理学・心理学的研究、障害学生支援に関する研究
川間 健之介 運動障害児者の心理、指導法の研究

山田 実 加齢に伴う身体機能低下の予防（介護予防）に関する研究

音声・言語障害学

宮本 昌子 小児の言語発達障害に関する研究、吃音、cluttering など発話の非流暢性障害に関する研究

三盃 亜美 先天性・後天性の読み書き障害に関する認知神経心理学的研究

障害原理論

岡 典子 障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究

障害福祉学

小澤 温 障害者に対するケアマネジメントとその評価に関する研究
八重田 淳 職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究
山中 克夫 認知症の人のための心理・社会的アプローチ
名川 勝 障害者の地域生活支援と権利擁護、知的障害者等の意思決定支援、大学における障害学生支援

森地 徹 当事者の視点を生かした障害者の地域生活支援に関する研究
大村 美保 障害者の雇用・就労障害者の雇用・就労、所得保障、および地域生活支援
河野 禎之 認知症や LGBTQ を含む多様な属性の人と社会に関する心理・社会的研究、ダイバーシティ&インクルージョン

柘植研究室



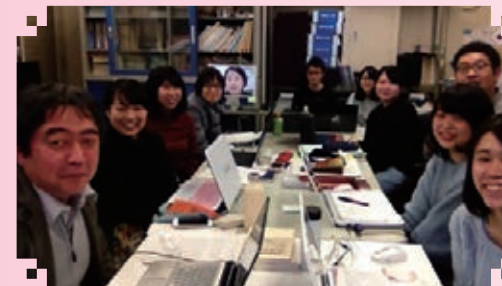
私たちの研究室では、知的障害のない発達障害、知的障害、行動障害、それらを重複する場合に関心があり、その理解や指導・支援に関する研究を行っています。また、より広く、特別支援教育やインクルーシブ教育、制度やシステム、障害のない人への対応、保護者への支援、一般市民の理解啓発等、「周りの環境」に関する研究も盛んです。研究対象は、就学前から学童期、青年期、成人期まで様々で、海外の学校や施設をフィールドにした研究や国際比較研究も。研究方法は、事例研究、調査研究、実験研究、質的研究、文献研究等様々。そして、研究成果が如何に実践の場で活用できるか（Evidence-Based Practice and Policy）という点を大切にしています。研究室の構成員は、学類（学部）、大学院博士課程の前期・後期、研究生、研修生と多彩で、年齢も国籍も様々。研究室のセミナーは、毎週全員が一堂に会して行い、個別の研究相談もしています。研究室は、お互いを認め合い寄り添い合う雰囲気でもち溢れ、その上で、研究は一生懸命にきちんと！構成員の人数も多いことから、仲間同士の教え合いや研究上の悩み事相談などもなされています。

大村研究室



私たちの研究室では、障害のある人の地域生活支援に関する研究を行っています。具体的には、障害者の雇用・就労に関する研究や、障害者虐待防止における基礎自治体の体制整備に関する研究、非行・犯罪行為のある障害者への支援などが最近のテーマです。このような、社会における平等、参加、貧困、社会的排除、虐待、地域での孤立といった現代社会における諸課題の多くは、社会福祉学が対象としています。週1回開催される研究会では、それぞれの知識や能力を持ち寄り、よりよい研究に洗練できるよう、質問や指摘、意見交換を活発に行っています。また、見学・訪問、研修会への参加、経験のある現場職員との意見交換など、実践現場とのつながりを大事にしています。人の生活や社会は複雑であり、標的を明確にして問題構成を浮かび上がらせるのは決して簡単なことではありませんが、苦労してまとめた研究成果をもとにして新たな政策展開が行われるときには、非常に大きなやりがいと達成感を感じます。一つひとつの研究はささやかなものかもしれませんが、障害のある人たちやその支援者・機関に対して研究を通じた貢献ができるよう、日々の研究活動を行っています。

岡崎研究室



私たちの研究室では、注意欠如多動症（ADHD）などの発達障害のあるお子さんの認知発達とその評価の方法、支援の方法について研究を行っています。大学に相談に来られるお子さん等にご協力頂き、認知やその発達にどのような特徴があるのかを調べるために、検査やテストを用いたり、一緒に学習や遊びを通じた支援について考えたりするとともに、その開発にかかわるような基礎的な実験を行ったりもしています。また、行動からではわかりにくい認知の働きを調べるために、脳の電氣的活動を測定（脳波）したり、脳血流の測定をしたりもしています。このように、障害のある人々に関する基礎研究と応用研究を通して、知的発達や認知発達の特徴や独特さを知り、理解や支援につながるような活動を行っているのが研究室の特徴といえるでしょう。学生の皆さんも基礎だけ、応用だけではなく、それぞれの研究活動に関与しながらご自分の研究を進めています。表面的には特徴や困難さがわかりにくい発達障害の理解や支援に興味がある方は、ぜひ障害科学類でその学びを深めていただきたいと思います。

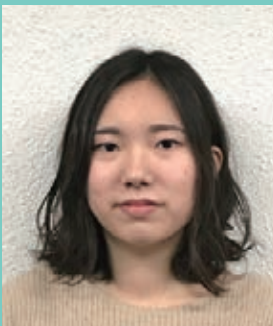
授業紹介

米田宏樹准教授「知的障害学校教育論（指導法）」 3年 岸良隼人



私は本学類で「特別支援教育学モデル」を選択し、特別支援学校教育論の免許資格の取得を見据えた履修計画をもとに学習等を進めています。このコースを経て、障害科学類の授業および他学類の授業に臨み、教員に求められる幅広い領域の知識・理解を深めることを目標としています。例えば2年次の秋学期に受講した「知的障害学校教育論（指導法）」では、学習指導要領解説やVTRを活用した授業を通して、知的障害教育に関する教育課程や授業実践などについて学習し、基礎的な概念から教育現場等の少々込み入った話まで、様々な知見を得ることができました。米田先生のユーモアに溢れる巧みな授業は、その豊富な情報量で圧倒されるものの、課題等へ取り組む中で授業内容を反芻することで、効果的に学習を進めることができます。インクルーシブ教育の目指すべきかたちについて多様な考え方が錯綜する中で、「本当に必要な共生とは何か」について考える、よいきっかけとなった授業です。

大村美保助教・森地徹助教「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 3年 青山奈央



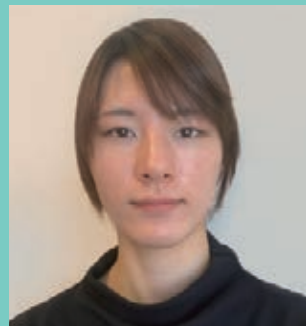
私は社会福祉士の資格を取得したいと現在考えています。そのための勉強をする中で、ソーシャルワークに必要とされる理念や技術が、実際にはどのように用いられているのかを知りたいと考え、この授業を受講しました。この授業では、ソーシャルワーカーの支援における考え方、面接や記録の技術を、ディスカッションやグループワークを通して学びます。自分で学んだ技術を体感できるのはもちろん、先生方から実際に仕事をする際のポイントについてのお話を聞くことや、自分の思考の傾向について改めて考える機会とすることもできます。ソーシャルワークで用いる考え方や技法というのは、人と人の間で用いられるものであるだけに、座学だけでは理解が難しい部分というのがあります。そのため、実際に技術を使いながら学んだり、自らの価値観について考えることのできるこの授業は、ソーシャルワークについて学ぶ上で、大変有意義な授業だと思います。

ソーシャルワーク実習 4年 浦邊日菜子



私は社会福祉士を目指しており、社会福祉学に関する講義を受講しています。講義を受ける中で「貧困」に関心を持ち、生活保護の窓口を担う福祉事務所での実習を決めました。実習では、生活保護を受給する方への居宅訪問の同行や実際に面接もさせて頂きました。現場の様子を目にし、触れる中で、相談者が主体となって課題に取り組めるよう働きかけることが社会福祉士の役割であることや、それを実際に行うことの難しさを学ぶことができました。日々新しい発見や学びがあり、とても充実した1か月間であったように思います。自分の将来についても以前は漠然としていましたが、実習を通して、将来どのような形で福祉に携わりたいのか具体化することができました。病院や障害者支援施設等で実習を行った友人も同様に、多くのことを学ぶことができたと話しています。様々な実習先がありますが、どの実習先を選択しても、自身の考えや価値観に大きな刺激を与えてくれる大変貴重な時間になると思います。

卒業研究 2019年度卒 前川祐里奈



卒業研究では、認知症ケアを専門としている山中克夫研究室で、介護現場でのよりよいケアの実践のために高齢者の笑顔を客観的に評定する方法について研究しました。卒業研究では、自ら問いを立て、調査をし、結果をまとめていくことになりますが、既に他の人が同じような研究をしていないか、研究の結果は役に立つのか、といった視点も必要になります。入学してから、講義を受ける中で興味を広げていき、テーマを探していくことができます。約1年間かけて取り組んでいくことになるので、慎重に決めたいところです。私は研究を進めていくうえで、分析の方法やまとめ方について分からず苦労しました。しかし、指導教員の先生方や所属する研究室のメンバーにもアドバイスを頂き、同期の友人などと協力し合いながら興味のある分野の研究を進めていくことはとても意義のある経験になりました。卒業論文が完成した時の達成感は忘れられません。障害科学類は教員の研究分野も幅広く、きっとやりたい研究ができると思います。ぜひ皆さんも障害科学類で研究をしましょう！

海外留学、研修

障害科学類では、筑波大学や人間学群で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることが出来る
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。

詳しくはHP（<http://www.kokuren.tsukuba.ac.jp/GP/gplist.html>）をご覧ください。

これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。最近では中国、韓国、ロシア、台湾の大学を訪問しました。

障害科学研究法 4年 稲葉史華



障害科学研究法では、春学期に「入門」を行い、秋学期に「実習」を行います。「入門」では、文献研究、質・量的調査研究、事例研究、生理心理実験研究、視・聴覚機能評価、心理評価について、各研究法の特徴や方法、手順について学びます。「実習」では、「入門」での講義に沿って、各研究法を実際に行っていきます。「実習」は大学院博士後期課程の学生がインストラクターとなつて、授業を進めてくださいます。「実習」では実際に自ら体験しながら学んでいくため、「入門」の講義でイメージしづかった部分も、しっかりと理解することができ、多くの学びを得ることができます。聴覚機能評価法では、聴力検査機器を扱ってみたり、生理心理実験では、脳波をはかってみたりなど、初めて体験することも多く、また実習後には、各研究法についてレポートにまとめ添削を受けることで、レポートの書き方も上達していきます。限られた授業時間の中で行うので、深く研究を行うことはできませんが、様々な研究法について触れることで、自分のやってみたい研究を見つける良いきっかけになると思います。

特別支援教育実習 4年 中村初音



3年次の9月、教育実習生として過ごした筑波大学附属聴覚特別支援学校での3週間は、私の人生において最も濃密な3週間でした。実習中、授業や子どもたちとのやり取りで毎日悩み、落ち込みましたが、それ以上にたくさんの学びを得ることができました。先生方からは、「ことば」に常にアンテナを張り、幼少期からひとつひとつ丁寧にことばの指導を行う大切さと楽しさを教えていただきました。また、子どもたちからも、丁寧に話すこと・聞くことの大切さや、できることは周りに教え、できないことは教わる姿勢、みんなが楽しめる鬼ごこの方法など、たくさんのことを学びました。特別支援学校での3週間は、きっとたくさんの壁にぶつかります。しかし教育実習は、昨日より今日、今日より明日と驚くようなスピードで成長する子どもたちと、深く関わることができる素晴らしい機会です。たくさんの困難を自分の力で乗り越えた時、必ずその経験は皆さんの大きな糧になると思います。応援しています！

アメリカ・オハイオ州立大学短期研修 3年 山本響平



2年次にアメリカのオハイオ州立大学で行われた短期研修に参加しました。特別支援学校や研究施設の見学、大学での講義などを通してアメリカの特別支援教育や福祉について学びました。私は普段、大学で特別支援教育を学んでいますが、アメリカの特別支援教育について知り、日本と比較する中で問題意識が生まれ、学びに対する意欲が高めることができました。特に印象的だったのは特別支援学校の見学でした。教員以外に理学療法士、作業療法士といった様々な専門職が学校に勤務しており、コラボレートしながら教育が展開されていることを知り、感銘を受けました。自由時間には現地の学生さんたちの案内で市内をまわり、アクセシビリティの状況や健常者の障害のある人への態度など、実際に現地に行かなければわからない様々な発見をすることができましたし、アメリカの文化に思う存分触れることができました。アメリカの特別支援教育について知りたい、英語力の向上、とにかく海外に行きたい…どんな目的であっても、確実に刺激的な体験ができます。高い英語力がなくても大丈夫なように様々なサポートをしてくれるのもこのプログラムの特徴です。ぜひ参加してみてください！

人間学群国際化プロジェクト 3年 羽田野航太



私は2018年12月に、人間学群国際化プロジェクトというプログラムで台湾の国立嘉義大学に行きました。現地では、大学生との交流や、附属の小中学校への授業見学をしました。特に授業見学では、台湾と日本の教育課程の違いを直接目にすることができ、良い経験となりました。実習内容は、主に教育学類の内容で、障害科学とは分野が少し異なるところがありましたが、教育学は特別支援教育に密接な関係があります。特別支援学校の教員を目指している私にとって、海外の教育現場を見られたことは大変貴重な経験になりました。その他にも、昼休みに昼寝をすることなど、文化の違いも体験できました。海外への渡航は、勉強はもちろん、現地の文化、風土、食べ物に直接触れるよい機会です（特に、台湾の食事は最高です！）。筑波大学には、この他にも、交換留学や長期留学など、海外に行ける環境が整っています。海外に行きたいけれど不安や迷いがあるそこのあなた、筑波大学の制度を活用して海外に飛び出してみませんか？

専門を学びながら、様々な挑戦ができる学生生活

4年 館下智子



私は、この学類には障害科学研究における全国随一の環境があると思い、進学しました。入学当初は、専門分野が未定でしたが、講義や附属支援学校見学を経て、「特別支援教育を学んでみたい!」という思いが強くなり、現在小学校教諭と特別支援学校教諭、2種類の免許取得を目指しています。私の場合、他学類との交流も多く、刺激を受けながら大学生活を送っています。

また、課外活動では、障害を違う視点で捉えたいと思い、難民支援サークルと更生保護活動団体、そして歌留多部に所属しています。紛争地には障害があることでさらに生活が困難になる人がいたり、非行と障害は関連があったりと一見無関係な分野であっても、自分の専攻分野との接点を発見できました。大学は自分の専攻分野を学ぶだけでなく、より多くの視野を広げる場でもあると思います。ぜひ私たちと一緒に筑波大学で学びましょう。

やりたいことが実現できる学び

3年 浅子綾美



私は現在、小学校教諭と特別支援学校教諭の2つの教員免許取得を目指しています。入学当初は社会福祉士を目指していたのですが、障害科学類の講義を受け、子どもたちが楽しく授業を受けている様子や先生方の「障害」に対する思いを目の当たりにし、教員への道を選ぼうと決心しました。障害科学類では、特別支援学校の教師を目指すこと、社会福祉士を目指すこと、そのどちらかが実現可能です。自分のやりたいこと、

将来の夢は何かを考え、真っ直ぐに進めば必ず実りある学びができると思います。初等の授業でも特支の授業でも、子どもたちの様子を何う度にキラキラした笑顔が見れます。履修モデルを変えるにあたり、多くのことに悩み、何度も考え直しましたが、周りにいる友人や先生方に相談を重ね、教職の道を選べたことは後悔していません。障害のある子どもたちのそばで自分にできることをしたいと考えていた私にとって、現在進行形で取り組んでいる学びのどれもが充分すぎるくらいに素敵なんです。障害科学類では自分のやりたいことが実現できる学びを得られると思っています。みなさんにお会いできること、楽しみにしています。充実した大学生活を送ってください!

障害科学類で充実した学びを

4年 須賀健也



皆さんは「障害」という言葉を聞いてどんなことを思い浮かべますか? 私は、障害科学類で学び始めてから「障害」に対するイメージが大きく変わり、また思っていたよりもずっと身近に考えなくてはならないことだと感じています。この学類は、特別支援学校の教員や社会福祉士などの具体的な目標を持って入学する学生が多いと思われがちですが、私のように人と人との関わり

りについて様々な観点から幅広く学んでみたいといった方にも、とてもおすすめです。また、障害科学類は少人数であるため、先生方や学生同士との距離が近く、とても温かいアットホームな雰囲気の中で学ぶことができます。最後に、皆さんが障害科学類という日本では他に類を見ない、ユニークな場所です。学びは、高校生までの学びとは少し違った非常に興味深いものとなると思います。ぜひ、一緒に障害科学類で充実したキャンパスライフを送りましょう!

専門性の高い学びを仲間とともに

4年 池田遥香



皆さんこんにちは! 筑波大学の障害科学類は、全国にも類を見ない専門性の高さを誇り、各領域たくさんの先生方がいらっしゃるため充実した授業を受けることができます。私自身、ここ筑波大学障害科学類でしか学べないことがあるのではないかと考えています。入学時点で将来専門的に研究したいことが不透明であっても大丈夫! どの授業も基礎から丁寧に教えていただけま

す。また、学類生は皆本当にあたたかく、切磋琢磨できる存在です。自分とは違う専門領域を学ぼうとしている人、新しい道を歩もうとしている同志、たくさんの人がいますが、このような仲間とはここでしか出会えないと思います。これもこの学類の専門性の高さゆえかもしれません。様々な経験を持つ先生方や友人とすごす大学生活は、このパンフレットを読んでくださっているあなたにとっても必ずや有意義なものとなるでしょう。春の陽気の中、キャンパスのどこかでお会いできるのを楽しみにしています。

障害科学類生による学生生活、学類紹介



学びは大学の外でも

4年 高野惣一



現在、私は社会福祉学履修モデルで学業に動んでいます。新しく知る概念や現状の社会福祉制度に、驚きと疑問を抱く毎日が続いています。もちろん、授業後に先生方に直接質問をすることもありますが、より時間をかけて学びを深めたい、と思う人も多いはず。そんな時はクラス担任中心とした先生方に相談してみましょう!

先生が持つコネクションはとても幅広く、実際に私もいくつかの講演会紹介や現場見学をさせてもらいました。機会を頂く度に興味関心はさらに深まり、大学の授業がもっと生かされる結果となりました。さらに、人間学群では人間フィールドワークという授業があり、その授業に位置づけられる研究会として学校の授業の一環で福祉現場の見学ができます。学類の仲間と同じ現場を見て感じたことを共有するのも良いでしょう。大学は座学だけではない。「見て・聞いて・考える」ができる環境を皆さんも是非楽しんでみて下さい!

学生の「やってみたい」を応援してくれる T-ACT

4年 山口和紀



私はT-ACTという、学生の「やってみたい」を応援する学生支援組織のサポーターとして活動しています。障害科学類生は、T-ACTを利用して、福祉関係のイベントを主催する人が多いです。私の主催したソーシャルデザインの講演会や、障害のある兄弟/姉妹をもったきょうだいへの支援の講演会、障害の有無に関わらずスポーツを楽しむためアダプテッドスポーツのセミナーな

どは、障害科学類生が中心になった企画です。それぞれの企画で、友人たちがプランナーやボランティア、参加者として積極的に行動しているのが印象に残っています。あなたもT-ACTを使えば、たくさんの人を巻き込み、社会を変える一歩を踏み出せるかもしれません。私たちも、障害科学類の先生たちも、それを応援します。机の上の勉強だけでなく、能動的に「学問をする」環境が整っているのが障害科学類の強みです。いつか、あなたとT-ACTで出会えるのを心待ちにしています。

やりたいことが出来る環境

2年 高岡杏



私は重度の運動障害を持っていて、授業は運動障害支援チームからピア・チューターを派遣してもらい、ノートテイクを頼んでいます。また、ヘルパーを利用して学生宿舎のバリアフリーが整っている部屋で一人暮らしをしていたり、周りの方々に助けてもらいながらの大学生活ですが、とても楽しいです。私は教職課程なので特別支援教育についてや、ほかの学群に教科の科目

を取りに行ってます。教職以外の福祉系の科目も取ることができるので、自分の興味の幅が広がることが障害科学類の魅力だと思います。先生に教えていただいた交流会などに参加してみることも自分が知らなかった世界が発見でき、おすすめです。また、私は学園祭実行委員会の委員長を務めていて、全学規模で色々なことを見ることは大変な部分もありますが、一生に一度の経験だと思うので楽しみながらやっています。このように大学生活はやろうと思えばなんでも出来るので、みなさんも色々なことにチャレンジしてみてください!

筑波大学は全国の障害学生支援の中心

4年 武石龍基



筑波大学には多くの障害のある学生が在籍しており、彼らの学生生活を支援する仕組みがあります。その中の一つにピア・チューター制度というものがあります。これは講座を受講してピア・チューターとして認められた筑波大学の一般学生が障害学生の学修のサポートをする支援制度です。障害支援チームは聴覚、視覚、運動に分かれて障害に合わせた支援を学生が主体となって

行っています。また、大学説明会の障害学生説明会や新入障害学生のサポートなど講義の他にも活動があり、時に障害学生も協力して取り組み、一般学生と障害学生の交流もあります。私も身体障害があり手足に麻痺があるためノートテイクの支援を受けておりとても助かっています。ピア・チューター制度は支援する学生にとっては障害と直に接し支援する経験を得ることができる貴重な場です。障害について専門的に学べて実践的な支援活動も経験できる障害科学類で、実りある大学生活を、ぜひ私たちと過ごしてみませんか。

卒業後の進路

各履修モデルと 取得可能免許・資格

障害科学履修モデル

本学には障害科学に関するわが国で最も整備された大学院（人間総合科学研究科）があり、学類卒業後には進学することを勧めています。近年、障害関連職種での専門化が進み、大学院修了資格を有するより専門性の高い人材が求められています。進学以外の進路としても、一般社会での障害者の活躍が進み、そのための支援の充実が広がる中で、障害に関連した種々の職種の中で専門家としての知識・技能の発揮が期待されています。教職課程を履修すれば、教員免許状の取得も可能です。大学院では、学校心理士、臨床発達心理士などの申請資格を取得することが可能であるほか、自閉症スペクトラム支援士の実践歴が得られます。

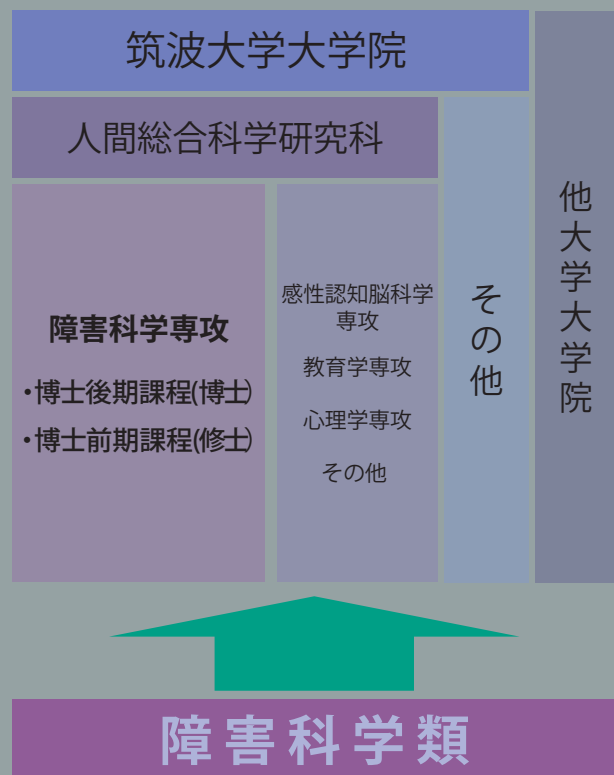
特別支援教育学履修モデル

主として特別支援学校及び小・中学校などの特別支援学級の教員のほかに、国家公務員、地方公務員に就くことを想定しています。また、本学大学院（人間総合科学研究科）への進学も勧めています。学類と大学院との一貫したカリキュラムの履修により、進学者は専修免許を取得し、より専門性の高い教育者・研究者となることを目指すことができます。

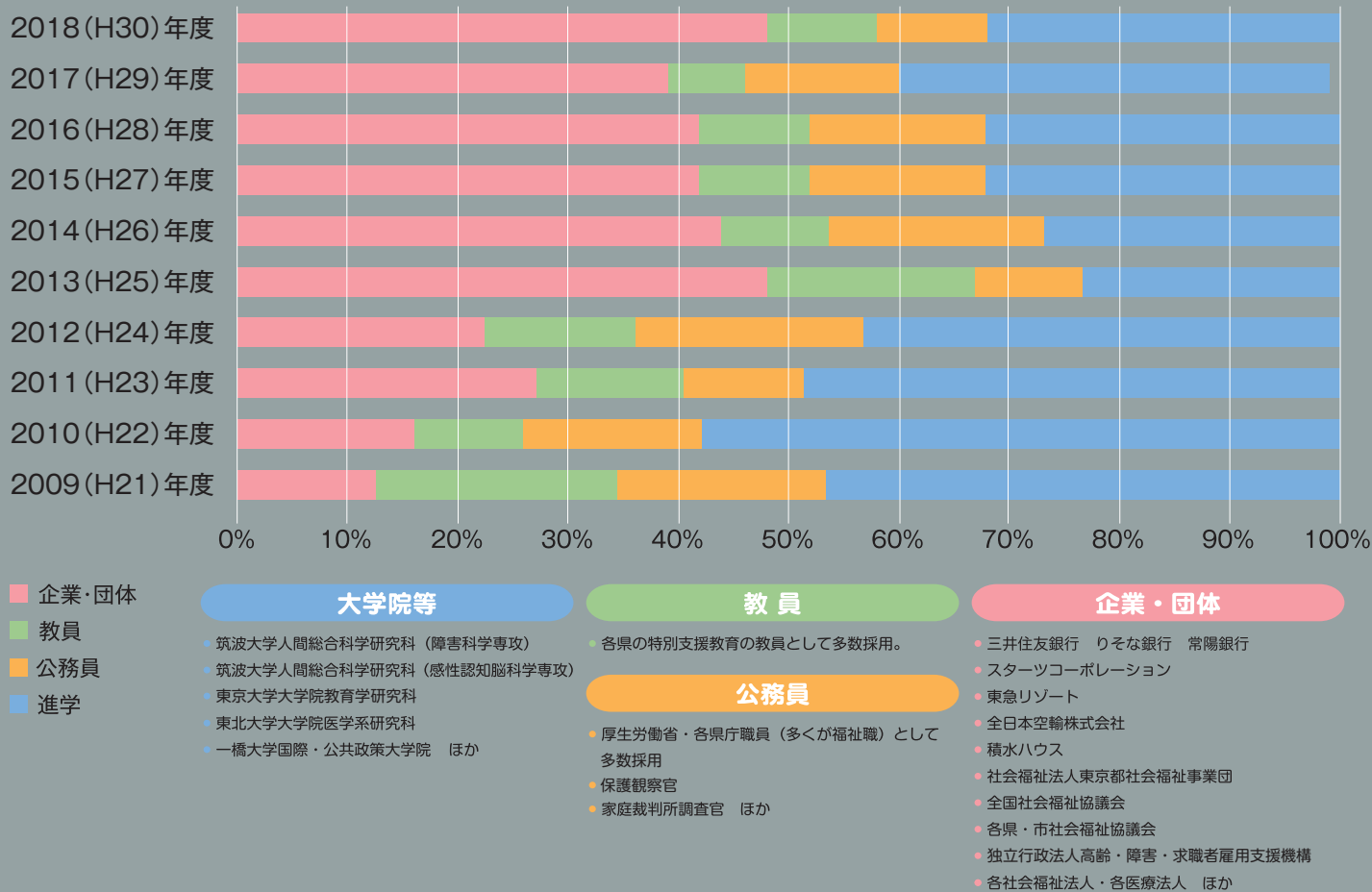
社会福祉学履修モデル

指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。福祉系の国家公務員・地方公務員、社会福祉協議会、教員、障害者・高齢者・児童等の福祉専門職、シルバーサービス関連の一般企業等、福祉の専門性を生かした職種の中で、専門家としての知識・技能を発揮することが期待されています。もちろん、本学の大学院（人間総合科学研究科）への進学も可能です。

学類生の大学院進学先



進路実績 主な進学・就職先（障害科学類・人間学類心身障害学主専攻）



附属学校 関連組織

附属学校

筑波大学には、11の附属学校のうち5つの特別支援学校があり、大学と連携して教育活動をおこなっています。見学や授業参観、そしてボランティアなどを通して障害のある子どもと彼らへの支援の実際について理解を深めることができます。



附属大塚特別支援学校（東京都文京区）
<http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/>



附属久里浜特別支援学校（神奈川県、横須賀市）
<http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>



附属視覚特別支援学校（東京都、文京区）
<http://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/>



附属聴覚特別支援学校（千葉県、市川市）
<http://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>



附属桐が丘特別支援学校（東京都、板橋区）
<http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>

関連組織

以下の関連組織もあります。

- 1 附属学校教育局
<http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp>
- 2 教育開発国際協力研究センター
<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/>
- 3 心理・障害相談室（筑波キャンパス）
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/IDS3/counsel/outline.html>
- 4 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（アクセシビリティ）
<http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

筑波大学では全学で100人以上の障害のある学生が学んでおり、トレーニングを受けた学生が「ピア・チューター」として支援活動に携わっています。入学式や大学説明会などでもピア・チューターが活躍しています。



ピア・チューター養成講座の様子

入試情報

推薦入学試験（定員12名）

書類選考・小論文・面接

実施時期（11月下旬）

前期日程（定員17名）

大学入学共通テストの利用教科・科目名

実施時期
（1月中旬）

個別学力検査

実施時期
（2月下旬）

国	国語
地歴	世B、日B、地理B
公民	現社、倫、政経、倫・政経
数	数I・数A、数II・数B、簿、情報から1
理	物基、化基、生基、地基から2 または物理、化学、生物、地学から1
外	英

[5教科6~7科目]

詳細については、「入学者選抜要項」(7月)、「学生募集要項」(9月)、及び大学ホームページで必ず確認してください。(入試の最新情報はトピックにも掲載しています)

後期日程（定員3名）

大学入学共通テストの利用教科・科目名は前期日程と同じです。個別学力検査は集団討論を行います。

国	現代文B・古典
地歴	世B、日B、地理Bから1
公民	倫
数	数I・数II・数A・数B 数I・数II・数III・数A・数Bから1
理	物基・物、化基・化、生基・生、地基・地から1
外	英
その他	集団討論

筑波大学ホームページ(入試情報)

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

入試についての問い合わせ先

筑波大学教育推進部入試課

TEL:029(853)6007

高校生のための大学説明会

毎年8月と3月に、筑波大学において高校生のための大学説明会を行っています。全国から多くの高校生が集まって、プレセミナーを通して障害科学を実体験します。最新の情報は障害科学類ホームページのトピックをご覧ください。



筑波大学までの交通

■つくばエクスプレス:

- ・秋葉原駅からつくば駅まで最速45分
- つくばセンターから「筑波大学中央」行バス(約10分)
- 「筑波大学循環(右回り)(左回り)」バス(約10~15分)

■JR常磐線:

- ・ひたち野うしく駅 バスターミナル東口から「筑波大学中央」行バス(約45分)
- ・荒川沖駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス(約35分)
- ・土浦駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス(約30分)

■高速バス:

- 東京八重洲南口から「筑波大学」行高速バス(約75分)

■自動車:

- 常磐自動車道「桜土浦」I.C.下車、「東大通り」を北上し、筑波大学中央入口 到着(約15分)



筑波大学

●筑波大学中央

循環バス
約10分

つくばセンター

桜・土浦I.C.

学園東大通り
約15分

水戸

常磐自動車道

70km

東京

自動車

高速バス
(つくばセンター行 or 筑波大学行)

JR常磐線

つくばエクスプレス



College of Disability Sciences
School of Human Sciences, University of Tsukuba

2021

筑波大学ホームページ(入試情報)
<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>
入試についての問い合わせ先 筑波大学教育推進入試課

人間学群障害科学類
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/ids/shougai>



筑波大学 学群入学試験に関するお問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

Tel. 029-853-6007

Fax. 029-853-6008

<http://www.tsukuba.ac.jp/admission/>